

## 〔各都道府県の状況〕

### 【北海道】

**現在の景気：**設備投資、輸出が持ち直しているものの、生産活動、観光が足踏みするなど、横這い圏内の動き。

**3か月程度の見通し：**横這い圏内で推移するとみられている。

**個人消費：**緩やかな持ち直し。2月の大型小売店販売（店調前）は、百貨店販売が前年比4.8%減少したものの、スーパー販売が1.9%増加し、全体では前年比0.3%増加。気温低下の影響から春物衣料品や身の回り品などが振るわなかったものの、生鮮食品価格の高騰などから飲食料品が増加。乗用車販売（軽含む）は、エコカー補助金の効果から、前年比30.6%増加。

**住宅建築：**持ち直しの兆し。2月の住宅着工戸数は、分譲住宅が前年比32.7%減と2か月連続で減少したものの、持家が0.4%増加、貸家が55.1%増加し、全体では前年比16.0%増と3か月ぶりに増加。12-2月期累計は前年同期比8.5%減少。

**設備投資：**持ち直しの動き。病院・福祉関連施設で更新・新設、改修工事が増加。2月の建築着工床面積（非居住用）は前年比0.1%減少。

**公共工事：**減少基調。2月の公共工事請負額は前年比20.6%減と3か月連続で減少。前年の補正予算による押し上げ効果の反動から減少。

**輸出：**持ち直しの動き。2月の道内通関輸出額は、サウジアラビア向けの一般機械が前年比2.0倍増加、北米向けの自動車部品が39.3%増加し、全体では前年比10.6%増と2か月連続で増加。

**生産活動：**横這い圏内の動き。2月の鉱工業生産指数（季調済）は前月比1.1%低下。悪天候による出荷停止を余儀なくされた窯業・土石製品が前月比6.5%低下、原料不足から砂糖生産が前倒しで終了した食料品が2.0%低下。

**観光：**足踏み。2月の来道者数は前年比2.9%減と2か月連続で減少。国内客はこのところ持ち直しの動きが鈍化。海外客はアジア客を中心に緩やかな持ち直し基調。

**雇用情勢：**持ち直しの動き。2月の有効求人倍率（常用）は前年比0.10ポイント上昇し0.54倍と25か月連続で上昇。新規求人数（常用）は前年比13.9%増加。医療福祉が前年比10.0%増加、道外での従事者不足による求人増が見受けられた建設業が53.4%増加。

### （トピックス）

○4月20日、「ミシュランガイド北海道2012特別版」を発売。道内の「星」つきの飲食店は69軒（宿泊施設含む）で、うち最高評価の「三つ星」は4軒。本誌の発行を受け、「食」目的の観光客増加が期待される。

○ユーラスエナジーホールディングス（東京）は、釧路白糖工業団地内（白糖町）でのメガソーラー建設計画を発表。発電規模は最大30メガワットで、国内最大級の規模。投資額は100～150億円を見込む。

## <主要産業の動向 ー北海道ー >

- 鉄鋼**：2月の生産指数（季調済）は前月比0.1%低下。自動車向け特殊鋼などが堅調に推移し、横這い圏内の動き。関東方面の再開発需要などから建材関連（普通鋼）に増産余地があるとみられるなど、底固く推移する見通し。
- 金属製品**：2月の生産指数（季調済）は前月比4.8%上昇。震災などから公共工事の遅れが発生し、生産時期が後ずれしたため、引続き増産基調。
- 一般機械**：2月の生産指数（季調済）は前月比2.0%上昇。欧州債務問題を発端とした世界景気の減速から海外の受注が減少し、横這い圏内の動き。当面厳しさが残る見通し。
- 電気機械**：2月の生産指数（季調済）は前月比3.2%低下。世界景気の減速から海外の受注が減少し、集積回路など半導体関連を中心に減産。車載用の電子機器を除き、低調に推移する見通し。
- 輸送機械**：2月の生産指数（季調済）は前月比6.3%上昇。定期点検のため稼働率が低下した造船の生産ラインを本格稼働させたことから押し上げ。国内外の自動車販売に持ち直しの動きがみられ、自動車駆動伝動装置などの自動車部品も堅調に推移。持ち直し基調を維持する見通し。
- 窯業・土石製品**：2月の生産指数（季調済）は前月比6.5%低下。首都圏の再開発需要や韓国・香港など東アジアからの受注（民需）が堅調だったものの、悪天候のため出荷ができず、在庫調整のため減産。先行きは堅調に推移する見通し。
- 石油・石炭製品**：2月の生産指数（季調済）は前月比5.6%低下。3月上旬に仙台製油所が再開したため、先行きは代替生産分が剥落する見通し。
- パルプ・紙・紙加工品**：2月の生産指数（季調済）は、駆込み需要から、前月比3.5%上昇。
- 食料品**：2月の生産指数（季調済）は前月比2.0%低下。ビートの不作により、砂糖生産の原料が枯渇。乳製品（バターなど）への需要は堅調に推移。先行きは横這い圏内で推移する見通し。
- 建設業**：道内建設業許可業者（2012年3月末時点）は2万774業者と前年比744業者減少し、8年連続で減少。

## 【青森県】

**現在の景気：**震災の影響が薄れつつあるなか、緩やかな持ち直しが続いている。

**3か月程度の見通し：**復興需要を背景に緩やかな持ち直しの動きが続くとみられている。

**個人消費：**持ち直し。2月の乗用車販売は、普通乗用車、小型乗用車、軽乗用車ともに大幅に増加し、全体では前年比30.3%増と6か月連続で増加。大型小売店販売（速報値）は、百貨店販売が12か月連続で減少、スーパー販売が5か月連続で増加し、全体では前年比1.5%減と3か月連続で減少。

**住宅建築：**足許増加。2月の住宅着工戸数は、主力の持家が前年比10.4%減と3か月連続で減少、貸家が5.7%減と5か月ぶりに減少したものの、分譲住宅が320.0%増と大幅に増加し、全体では前年比22.5%増と2か月連続で増加。

**設備投資：**一進一退。みちのく銀行の県内企業景況調査（1月実施）によると、2011年10-12月期の設備投資実施割合は、前期（2011年7-9月期）比1.8ポイント低下し33.9%、前年同期（2010年10-12月期）比8.3ポイント上昇。一方、日本銀行青森支店の調査によると、2012年度の設備投資計画は、製造業が前年度比44.8%減少、非製造業が6.9%減少し、全産業では前年度比36.4%減少。震災復旧関連投資の反動などから大幅に下回る見通し。

**公共工事：**持ち直し。2月の公共工事請負額は、独立行政法人等が7か月連続で減少したものの、国が7か月連続で増加、県が6か月連続で増加、市町村が3か月連続で増加し、全体では前年比11.5%増と3か月連続で増加。

**輸出：**低調。2月の県内通関輸出額は、韓国・台湾向けの鉄鋼、中国・ベトナム向けの魚介類が増加したものの、精密機器、オランダ・アラブ向けの一般機械が減少し、全体では前年比9.2%減と3か月連続で減少。

**生産活動：**やや一服感。1月の鉱工業生産指数（季調済）は前月比3.6%低下し98.3と2か月連続で低下。鉄鋼、パルプ・紙・紙製品が持ち直しの動き、電気機械が増勢鈍化。原指数は前年比6.6%低下し89.2と2か月連続で低下。

**観光：**低調。2月の県内観光施設（36施設）の入込客数は、豪雪、低温などの影響から、全体では前年比23.4%減少。宿泊施設（56施設）の宿泊客数は前年比2.1%減少。

**雇用情勢：**上向き。2月の有効求人倍率（季調済）は前月比0.03ポイント上昇し0.55倍と6か月連続で上昇。復興需要から建設業が増加したほか、水産加工業も求人が増加。

### （トピックス）

- 3月19日、観光庁は訪日外国人が観光しやすい環境を整備するため、訪問者が多い「戦略拠点」に全国から5地域を選定し、さらに今後訪問者の増加が見込まれる「地方拠点」に本県の「弘前」を含む14地域を選定。各拠点では国が費用を負担し、多言語のパンフレットや案内板を整備したり、交通の利便性に配慮したモデルコースを策定するなどして、外国人観光客の満足度を高める。
- 4月6日、東宝は、実現不可能と言われたリンゴの無農薬栽培を成功させた弘前市のリンゴ生産者・木村秋則氏の半生を描く映画を製作すると発表。タイトルは「奇跡のリンゴ」で、地元弘前市を中心に撮影し、2013年に全国公開を予定。

<主要産業の動向 ー青森県ー >

○リンゴ:2011年県産リンゴの2月の県外出荷量は前年比26.8%減の2万5,365t、前3か年の2月平均出荷量を29.8%下回る低水準。消費地市場価格は全種平均で前年比48.1%上昇し351円/kg、前3か年の2月平均価格を56.0%上回る。県外市場販売額は前年比7.2%増の85億5,500万円。市場価格はリンゴの入荷量が少ないことに加え、リンゴの食味の評価が高いことなどから記録的な高値で推移。

## 【岩手県】

**現在の景気：足踏み。**

**3か月程度の見通し：**足踏み状態が続くとみられている。

**個人消費：**一進一退。2月の大型小売店販売（店調前）は前年比1.9%減少。百貨店販売（店調前）は前年比15.5%減少。店調後は、降雪の影響から客足が鈍く、全体では前年比2.8%減と5か月ぶりに減少。スーパー販売（店調前）は、主力の飲食料品が堅調となるなど、全体では前年比2.9%増と2か月連続で増加。3月の乗用車販売（軽含む）は前年比171.2%増と7か月連続で増加。新型車の投入やエコカー補助金の復活から、普通乗用車が前年比211.5%増加、小型乗用車が147.3%増加、軽乗用車が171.5%増と6か月連続で増加。

**住宅建築：**増加。2月の住宅着工戸数は、貸家が前年比横這いとなったものの、主力の持家が53.8%増加、分譲住宅が50.0%増加し、全体では前年比27.0%増と2か月連続で増加。

**設備投資：**増加。2月の建築着工床面積（非居住用）は、卸売・小売業、教育・学習支援業が減少したものの、震災復旧・復興に伴い製造業、農林水産業用が増加し、全体では前年比14.0%増と3か月ぶりに増加。

**公共工事：**増加基調。3月の公共工事請負額は、国が前年比4.6倍増加、県が5.0倍増加、市町村が15.4倍増加し、全体では前年比5.2倍増と6か月連続で増加。震災復旧関連工事を中心に増加。

**生産活動：**持ち直しの動き。1月の鉱工業生産指数（季調済）は前月比7.3%上昇し90.6と2か月連続で上昇。自動車関連、復興関連の窯業・土石が上昇、主要業種である電子部品、一般機械、食料品が低下。2月の大口電力使用量は前年比6.2%減少。

**観光：**足許低調。2月の県内主要スキー場の入込客数は前年比15.1%減の25万1,000人。降雪に恵まれゲレンデコンディションは良好であったものの、今年は三連休がなかったことから、大部分のスキー場で振るわず。

**雇用情勢：**厳しい状況ながら、一部持ち直しの動き。2月の有効求人倍率（季調済）は前月比0.04ポイント上昇し0.79倍と10か月連続上昇。新規求人数（原数値）は、建設業を中心に災害復旧関連の求人が前年比65.2%増加。主な業種では、建設業が前年比164.8%増加、サービス業（製造業の派遣事業所からの求人、警備業（工事現場の誘導員））が139.5%増加、製造業は内陸部の自動車関連や沿岸部の食料品製造の求人増から69.8%増加、卸・小売業は復興需要を反映してスーパーやホームセンターでパートタイマー採用の動きがみられ30.7%増加。新規求人数は改善傾向にあるものの、正社員の有効求人倍率は0.34倍と低水準で推移し、厳しい状況。

### （トピックス）

- 岩手経済研究所の「いわて景気ウォッチャー調査」（1月実施、回答数90）によると、3か月前と比較した景気の現状に対する判断指数は、前回（2011年10月）調査比1.6ポイント低下し50.6。景況感の分かれ目とされる50を上回り、景況感の改善が続く。先行き（2～3か月先）に対する判断指数は52.8となり、先行きについても堅調と判断。
- 3月25日、いわて花巻空港発着便（日本航空、フジドリームエアラインズ）のダイヤを改正。一日あたりの往復便数は7便から9便に増便。

## <主要産業の動向 ー岩手県ー >

- 輸送機械**：1月の生産指数（季調済）は前月比 63.5%上昇し 162.5 と3か月ぶりに上昇。完成車は最新小型HV車の受注好調で増産態勢にあり、自動車部品関連も大幅に増産。
  
- 電子部品・デバイス**：1月の生産指数（季調済）は前月比 9.1%低下し 69.7 と2か月連続で低下。パソコン、デジタル家電など世界的なIT関連需要の低迷から半導体、複合部品ともに生産水準が低下。コンデンサは増産。
  
- 漁業**：3月8日、三陸沿岸に春の訪れを告げるイサダ漁が前年より3日ほど遅れて、一斉にスタート。前年は解禁直後の震災による壊滅的な被害を受け、県内の水揚量は予定の1万8,000 tを大幅に下回る2,463 t。今漁期の本県漁獲割当量は前年比3,000 t減の1万5,000 t。イサダ漁は例年3月をピークに4月まで続き、漁獲枠に達し次第終了。

## 【宮城県】

**現在の景気**：全体として景気は、震災被害が甚大な沿岸部は引続き厳しい状況にあるが、震災関連の復旧事業の増勢や買替需要の継続などを背景として、持ち直しの動きに広がりが見られる。77BI（暫定値：移動平均値）は前月比0.5ポイント上昇の97.6となり、持ち直しの動きとなっている。

**個人消費**：震災被害に伴う買替需要が続いている。2月の宮城県消費動向指数（移動平均値）は、前月比2.0ポイント上昇の100.0となり、前月に引続き上昇。大型小売店販売（店調後）は、前年比10.8%増と10か月連続して増加。百貨店販売は、店調後で前年比7.5%増と10か月連続して増加。乗用車販売は前年比44.8%増と6か月連続して増加。

**住宅建築**：持家を中心に持ち直しの動きとなっている。2月の住宅着工戸数は、前年比68.7%増と7か月連続して増加。利用関係別にみると、持家、貸家および分譲住宅ともに前年比増加。

**設備投資**：2月の建築物着工（非居住用）は、床面積が前年比515.1%増、工事費予定額は同575.8%増とともに前年比増加。

**公共工事**：震災復旧工事などから大幅に増加している。2月の公共工事請負額は、前年比325.9%増となり、10か月連続して増加。発注者別にみると、国の機関、地方の機関ともに前年比増加。

**輸出**：2月の貿易額は震災により企業の生産設備や港湾・空港施設が毀損したことなどから、輸出が前年比55.9%減、輸入が前年比35.2%減とともに減少。

**生産活動**：津波被害が甚大な沿岸部を中心に生産水準は低位にあるが、生産設備の復旧等を背景に持ち直しの動きがみられる。1月の鉱工業生産指数は、電子部品・デバイス工業が前月比マイナスとなったことなどから、前月比0.5%減と3か月ぶりに減少。一方、前年比では、食料品工業が前年比マイナスとなったことなどから、前年比21.3%減と11か月連続して減少。

**雇用情勢**：一部に改善の動きがみられるが、総じて厳しい状況が続いている。2月の有効求人倍率（季調済）は、前月に比べて有効求人数が増加したことなどから、前月比0.07ポイント上昇の0.89倍となった。また、新規求人数を産業別にみると、前年に比べて建設業や医療・福祉などが増加。

## （トピックス）

○復興庁は、東日本大震災の被災自治体に対する復興交付金の第1回配分金を決定した。県内22市町が申請した2,032億円に対する配分額は1,162億円で、交付率は57.2%となった。各市町への配分額は、仙台市が407億円（交付率65.6%）、次いで石巻市123億円（同31.4%）、亘理町112億円（同53.3%）、東松島市70億円（同66.8%）などとなった。石巻市や女川町（39億円）、山元町（47億円）など10市町で交付率が50%以下だったほか、栗原市、大郷町、加美町は配分がゼロで、塩釜市（55億円）、多賀城市（39億円）、大崎市（8億円）、南三陸町（53億円）は要求を上回る配分となった。

## 【秋田県】

**現在の景気：**一部に持ち直しの動きがみられるものの、足踏み。

**3か月程度の見通し：**横這い圏内で推移するとみられている。

**個人消費：**持ち直し。2月の大型小売店販売（店調前）は、衣料品が前年比6.3%減少したものの、主力の飲食料品が2.2%増加し、全体では前年比0.5%増と2か月連続で増加。3月の乗用車販売は、エコカー補助金の復活や新型車投入の効果から、普通乗用車が前年比142.5%増加、小型乗用車が157.0%増加、全体では前年比148.4%増と7か月連続で増加。軽乗用車が前年比132.5%増と7か月連続で増加。

**住宅建築：**低調。2月の住宅着工戸数は、分譲住宅が前年比19.2%増と2か月連続で増加したものの、主力の持家が12.0%減と3か月連続で減少、貸家が72.8%減と7か月連続で減少し、全体では前年比28.1%減と5か月連続で減少。

**設備投資：**慎重姿勢が強まる。日銀短観（3月調査）によると、2011年度の設備投資計画は、製造業が前年度比31.0%増加、非製造業が23.4%増加し、全産業では前年度比28.6%増加する見通し。全産業では、前回（12月）調査からやや下方修正されたもの、4年ぶりに増加。2012年度の設備投資計画は、製造業が前年度比4.9%減少、非製造業が21.6%減少、全産業では前年度比10.0%減少。

**公共工事：**減少傾向。3月の公共工事請負額は、国が増加したものの、県、市町村が減少し、全体では前年比4.4%減と4か月連続で減少。2011年度累計は前年度比20.8%減少。

**輸出：**増加傾向。2月の秋田船川税関支署管内通関輸出額は、マレーシア・韓国・中国向けの紙類および同製品が減少したものの、中国・台湾・マレーシア向けの非鉄金属、韓国向けの金属鉱およびくずが増加し、全体では前年比3.9%増と15か月連続で増加。

**生産活動：**一進一退。1月の鉱工業生産指数（季調済）は、精密機械、食料品、繊維などが低下したものの、一般機械、電子部品・デバイス、輸送機械などが上昇し、全体では前月比1.7%上昇し2か月ぶりに上昇。原指数は前年比5.4%低下し2か月連続で低下。

**観光：**横這い。3月の県内の主要観光地や観光施設の入込みは横這い。

**雇用情勢：**足踏み。2月の有効求人倍率（季調済）は前月比0.04ポイント低下し0.62倍と11か月ぶりに低下。新規求人数は前年比4.6%増と25か月連続で増加。

### （トピックス）

○3月30日、東北電力は、能代火力発電所（能代市）への大規模蓄電池「NAS電池」（ナトリウム・硫黄電池）の設置を取りやめると発表。前年、茨城県内の同じ構造の電池で発生した火災の原因が判明しておらず、運用開始が困難と判断。

○秋田市は「秋田公立美術大学」の設置許可を文部科学省に申請。現在の秋田公立美術工芸短大を四年制化して来春開学する予定で、同省の審査を経て早ければ10月下旬には認可される見通し。

< 主要産業の動向 ー秋田県ー >

- **電子部品**：2月の県内主要業者の生産額は前年比12.0%減と9か月連続で減少。
  
- **建設業**：2月の県内主要業者の新規受注実績は、民間工事が増加したものの、官公庁工事が減少し、受注総額は前年比51.2%減と3か月連続で減少。
  
- **酒造**：2月の清酒の総出荷量は前年比6.7%増と2か月連続で増加。増加幅も拡大。特定名称酒が前年比5.1%増と3か月連続で増加、主力の普通酒が7.3%増と2か月連続で増加。今冬の冷え込みから、需要に持ち直しの動き。
  
- **木材・木製品**：2月の製材品の生産量は前年比5.9%増と2か月連続で増加。出荷量は前年並み。製品市況は弱含み。

## 【山形県】

**現在の景気：**依然厳しい状況にあるものの、緩やかに持ち直している。

**3か月程度の見通し：**横這い圏内の動きが続くとみられている。

**個人消費：**持ち直し。2月の大型小売店販売（店調後）は前年比3.2%増と5か月連続で増加。3月の乗用車販売は、エコカー補助金の復活から、前年比148.8%増と6か月連続で増加。

**住宅建築：**減少。2月の住宅着工戸数は、貸家が前年比26.5%増加したものの、持家が21.2%減と2か月連続で減少、分譲住宅が12.5%減と3か月ぶりに減少し、全体では前年比9.4%減と5か月連続で減少。

**設備投資：**横這い。2月の建築着工床面積（非居住用）は前年比29.1%減と2か月ぶりに減少、工事費予定額は41.2%減と2か月ぶりに減少。

**公共工事：**減少。3月の公共工事請負額は前年比29.1%減少。

**輸出：**持ち直しの動き。2月の酒田港通関輸出額は前年比21.6%増と2か月連続で増加。

**生産活動：**足踏み。1月の鉱工業生産指数（季調済）は、一般機械、電子部品・デバイスが上昇し、全体では前月比0.1%上昇し6か月ぶりに上昇。

**観光：**厳しさが残る。12月の県内宿泊者数（延数）は前年比9.5%減少。

**雇用情勢：**持ち直し。2月の有効求人倍率（パート含む一般、季調済）は前月比0.01ポイント上昇し0.77倍。医療・介護のほか、復興需要を受けて建設業や製造業の求人が増加。

## （トピックス）

○フィデア総合研究所の「山形県家計消費動向調査」結果（2012年3月実施）によると、消費指数は前期（2011年12月）比4.4ポイント上昇し△94.4と3期連続で回復。景気判断指数が前期比3.3ポイント上昇し△43.8、暮らし向き判断指数が1.1ポイント上昇し△50.6とともに前期を上回り、消費マインドは震災前の水準に回復しつつある。今後の見通しは、消費指数が前期比2.4ポイント低下し△96.8と僅かながら悪化の見通し。景気判断指数が前期比1.3ポイント上昇し△42.5と回復を見込む一方、暮らし向き判断指数が3.7ポイント低下し△54.3と悪化する見通し。

○日本銀行山形事務所が発表した県内企業短期経済観測調査（短観）（2012年3月調査）によると、業況判断DIは、全体では5ポイント上昇し「△6」と2期ぶりに良化。業種別にみると、製造業が7ポイント低下し「△7」と3期ぶりに悪化超。一方、非製造業は16ポイント上昇し「△6」と2年ぶりに製造業を上回る。先行きについては、原油高のほか、復興需要による好影響の一巡などから、非製造業を中心に悪化予想。

○経済産業省が発表した2011年の工場立地動向調査によると、山形県への工場立地は前年比1件増の17件。内訳は、新設が13件、増設が4件。依然として低水準ではあるものの、2年連続で増加しており、設備投資の回復傾向が窺える。都道府県別件数では全国21位、東北3位。

## < 主要産業の動向 ー山形県ー >

- **一般機械**：1月の生産動向は、産業機械が前年比 26.1%増加、電子部品・デバイス製造装置が 60.8%増加、金属工作機械が 29.8%減少。国内外ともに受注が堅調に推移。円高による受注単価引き下げから、収益は伸び悩み。
- **電子部品・デバイス**：1月の生産動向は、半導体素子が前年比 16.5%増加、電子部品が 7.5%減少、集積回路が 29.3%減少。スマートフォン向け部品は生産拠点の再編などから減速感が強まり、電子部品は3か月連続で減少。集積回路は、車載向けが好調、家電向けが低迷。
- **輸送機械**：1月の生産動向は、自動車部品が前年比 12.3%増と6か月連続で増加。震災やタイの洪水被害による減産から持ち直し。
- **食料品**：1月の生産動向は、調理食品が前年比 0.7%増加、菓子類が 4.9%減少、肉製品が 4.7%減少、清涼飲料が 17.6%減少。調理食品は、震災後の代替生産によって増産が続いているものの、足許では増勢鈍化。清涼飲料は、大手メーカーの内製化や生産調整の影響から減産。

## 【福島県】

**現在の景気：**生産活動や住宅建築が鈍い動きとなっているものの、公共投資や雇用情勢で回復の動きが続いているほか、個人消費も前年を上回るなど、好転。

**3か月程度の見通し：**公共投資や雇用情勢は回復の動きがみられるものの、個人消費は先行きに不透明感、住宅建築や観光などは除染が進捗するまで伸び悩みが予想され、一進一退で推移するとみられている。

**個人消費：**回復の動き。2月の大型小売店販売（店調前）は、飲食料品を中心に増加し、全体では前年比5.2%増と5か月連続で増加。乗用車新車登録台数は、普通乗用車が前年比40.7%増加、小型乗用車が41.5%増加、軽乗用車が23.5%増加し、全体では前年比34.2%増と5か月連続で増加。家電品販売は、洗濯機や冷蔵庫などの白物家電に買替需要がみられ、全体では前年比約10%増加。ホームセンター販売は、冬の寒さが長引き、ファンヒーターや石油ストーブなどの暖房器具や灯油などが増加。

**住宅建築：**横這い。2月の住宅着工戸数は、持家が前年比3.4%増と2か月連続で増加、貸家が3.6%増と2か月連続で増加したものの、分譲住宅が33.3%減と5か月連続で減少し、全体では前年比0.2%減と2か月ぶりに減少。マンションの着工戸数は15か月連続でゼロ。

**設備投資：**増加。1月の建築着工（非居住用）は、棟数が前年比24.3%増と4か月連続で増加、床面積が34.9%増加、工事費予定額が42.2%増加。

**公共工事：**増加。2月の公共工事は、件数が前年比117.9%増と7か月連続で増加、請負額が230.8%増と7か月連続で増加、保証額が287.1%増と7か月連続で増加。

**輸出：**減少。2月の小名浜港通関輸出額は、金属鉱およびくずなどが減少し、全体では前年比42.3%減少。

**生産活動：**横這い。1月の鉱工業生産指数（季調済）は前月比6.7%上昇し90.4と2か月連続で上昇。情報通信機械が前月比32.1%上昇、食料品が24.0%上昇するなど14業種で上昇、化学が18.6%低下するなど6業種で低下。原指数は前年比3.9%低下し80.3と11か月連続で低下。

**観光：**減少。1月の県内3地区（福島、郡山、会津若松）の温泉旅館利用者数は前年比1.8%減と2か月ぶりに減少。

**雇用情勢：**回復。2月の新規求人倍率（季調済）は前月比0.03ポイント低下し1.39倍、原数値が前年比0.65ポイント上昇し1.42倍。有効求人倍率（季調済）は前月比0.03ポイント上昇し0.77倍、原数値が前年比0.31ポイント上昇し0.83倍と23か月連続で上昇。雇用保険受給者実人員は、震災により雇用保険給付条件が緩和されたこともあるものの、厳しい雇用情勢を反映し、前年比11.4%増加。

### （トピックス）

○日銀福島支店発表の短観（3月）によると、全産業が+12、製造業が△4、非製造業が+23。復興需要やエコカー減税などの政策効果から、建設業、卸・小売業など非製造業の業況回復が目立つ。

## < 主要産業の動向 ー福島県ー >

- **鉄鋼・金属**：2月の伸銅品の生産は、自動車向け端子材がほぼ前年並みの水準を確保したものの、半導体向け電子材は円高と低調な欧米経済の影響から生産水準が低下し、全体では前年比10%程度低下。建機用鋳造品は、アジア諸国や豪州、米国向けの堅調な受注を背景に前年比上昇。陸船用バルブは、設備投資の抑制傾向を反映し、前年比10%程度低下。
  
- **電気機械**：2月の自動車モーターの生産は、自動車メーカーの回復を受け、前年並み。配電盤、変圧器の生産は前年比上昇。
  
- **輸送用機械**：2月の鋳造品は、トラック向けがインドネシアやタイから安定した受注を確保し、前年を1割程度上回る生産。カーナビおよびカーオーディオは、タイの洪水により積み上がった受注残を解消する生産が続き、前年比上昇。オイルシールは前年並み。

## 【茨城県】

現在の景気：緩やかな持ち直しの動き。

3か月程度の見通し：回復のペースが鈍化するとみられている。

個人消費：持ち直し。3月の乗用車販売（軽含む）は、普通乗用車が前年比109.1%増加、小型乗用車が70.6%増加し、全体では前年比78.5%増と6か月連続で増加。2月の大型小売店販売（店調後、速報値）は前年比3.6%増と5か月連続で増加。

住宅建築：持ち直し。2月の住宅着工戸数は、貸家が前年比2.1%減少したものの、持家が21.8%増加、分譲住宅が102.2%増加し、全体では前年比18.6%増と3か月ぶりに増加。

設備投資：持ち直し。筑波銀行の「茨城県内企業経営動向調査」（1-3月実施）によると、設備投資を実施した企業の割合は、製造業が10月-12月調査実績比5.1ポイント低下し28.7%、非製造業が1.8ポイント上昇し25.2%、全産業では10月-12月調査実績比0.3ポイント低下し26.3%。日銀短観（茨城県分）によると、2012年度の設備投資計画は前年度比3割増加。2月の建築着工床面積（非居住用）は前年比78.4%増と2か月連続で増加。

公共工事：増加。3月の公共工事請負額は、復興事業関連工事の進捗により、国、独立行政法人等、県、市町村ともに増加し、全体では前年比38.7%増と6か月連続で増加。

輸出：減少。2月の県内税関3支署（鹿島、日立、つくばインランドデポ合計）の輸出額は前年比4.3%減と6か月連続で減少。鹿島港が前年比5.4%減少、日立港が4.6%増加、つくばインランドデポが42.1%減少。

生産活動：上昇。1月の鉱工業生産指数（季調済）は前月比4.2%上昇し96.7と2か月ぶりに上昇。鉄鋼、金属製品、一般機械、電気機械が上昇、電子部品・デバイス、非鉄金属、化学が低下。

観光：低調。1月の旅券発行数は前年比6.1%増の7,877通。

雇用情勢：持ち直し。2月の有効求人倍率（原数値）は前年比0.18ポイント上昇し0.83倍と22か月連続で上昇。季調済は前月比0.02ポイント上昇し0.77倍。新規求人倍率（原数値）は前年比0.22ポイント上昇し1.22倍。新規求人数は前年比22.7%増加、新規求職者数は0.8%増と6か月ぶりに増加、雇用保険受給者数は0.7%減と9か月連続で減少。

### （トピックス）

○茨城労働局によると、2010年から2011年の県内雇用のミスマッチが顕著な業種をみると、事務的職業が両年とも人員余剰。専門・技術的職業は人員不足で、2010年と2011年を比べるとその割合が増加。医師や看護師など医療、社会福祉関係職のミスマッチが大きい。震災後は建築・土木・測量技術者の求人が増加。震災の復興需要で受注が増加しているものの、公共工事において現場での専任者が必要となる施行管理技士が不足。

○県はトヨタレンタリース茨城と提携し、来年3月末まで茨城空港の利用者にレンタカーを最低1,000円で貸し出すキャンペーンを開始。2人以上の利用で24時間までの1台基本料金が1,000円（1人の場合は2,000円）。原発事故の影響で観光客が減少しており、空港の利用増と誘客の後押しを狙う。

## 【栃木県】

**現在の景気：**厳しい状況ながら、着実に持ち直している。

**3か月程度の見通し：**緩やかに持ち直していくとみられている。

**個人消費：**持ち直し。2月の大型小売店販売（店調後、速報ベース）は前年比3.8%増と5か月連続で増加。店調前は前年比0.7%減と2か月連続で減少。3月の乗用車新車登録・販売（軽含む）は、普通乗用車が前年比98.2%増加、小型乗用車が81.3%増加、軽自動車が81.1%増加し、全体では前年比86.3%増と6か月連続で増加。

**住宅建築：**一進一退。2月の住宅着工戸数は前年比15.2%減と3か月ぶり減少。

**設備投資：**底固い動き。あしぎん総合研究所が2月に実施した「あしぎん景況調査」によると、1-3月期実績見込みの設備投資額D I（「増加」-「減少」）は、製造業が前期（10-12月期）比11ポイント上昇し25、非製造業が4ポイント低下し36。4-6月期見通しは、製造業が今期（1-3月期）比4ポイント上昇し29、非製造業が6ポイント上昇し42。投資目的では、製造業で「維持・補修・更新」が最も多く、次いで「合理化・省力化」。

**公共工事：**増加基調。3月の公共工事請負額は前年比62.0%増と5か月連続で増加。年度累計は前年度比2.3%減少。発注者別（年度累計）では、国が前年度比17.7%増加、独立行政法人等が63.8%減少、県が11.2%減少。

**生産活動：**横這い。1月の生産指数（季調済）は、化学（医薬品）などが上昇し、全体では前月比7.0%上昇し89.8と3か月ぶりに上昇。

**観光：**厳しさ続く。1月のゴルフ場利用客数は前年比4.1%減と4か月連続で減少。2月の主要観光道路通過車両台数は前年比17.0%減と9か月連続で減少。

**雇用情勢：**持ち直し。2月の有効求人倍率（パート含む、季調済）は前月比0.04ポイント上昇し0.72倍と2か月連続で上昇。有効求人数（パート含む、原数値）は前年比16.8%増と22か月連続で増加、有効求職者数（パート含む、原数値）は3.6%減と4か月連続で減少。

## （トピックス）

- 3月8日、県は太陽光発電の飛躍的拡大を図るため、これまで募集していた事業者からメガソーラー事業候補者（県有地の5候補地について）を決定。今後、事業計画の詳細について各事業候補者と協議を進め、早期の事業化を図る。
- 3月30日、県は首都圏からの誘客および一家族一旅行運動を推進するため、旅行者向けのプレミアム付宿泊旅行券「元気度 日本一 とちぎ”券”」（夏季発行分）を発行した。販売価格は1枚3,000円（5,000円券として利用可能）。販売枚数は1万枚（夏季分は首都圏が5,000枚、県内が5,000枚）。販売期間は5月22日～8月31日。利用期間は6月15日～9月30日まで。

< 主要産業の動向 ー 栃木県 ー >

- 製造業：2月の大口電力使用量（製造業）は前年比1.4%減と12か月連続で減少。
- 一般機械：1月の生産指数（季調済）は前月比24.6%上昇し3か月ぶりに上昇。
- 電気機械：1月の生産指数（季調済）は前月比16.4%上昇し2か月連続で上昇。
- 輸送機械：1月の生産指数（季調済）は前月比4.6%低下し2か月ぶりに低下。
- 化学：1月の生産指数（季調済）は前月比22.7%上昇し3か月ぶりに上昇。
- プラスチック：1月の生産指数（季調済）は前月比11.1%上昇し4か月連続で上昇。
- 食料品：1月の生産指数（季調済）は前月比8.5%低下し2か月連続で低下。

## 【群馬県】

**現在の景気：**持ち直しつつある。

**3か月程度の見通し：**緩やかな持ち直しが継続するとみられている。

**個人消費：**底入れ。1月の大型小売店販売（店調前、確報値）は前年比3.8%増と10か月連続で増加。店調後は前年比1.0%減と6か月連続で減少。3月の乗用車販売は、エコカー補助金の効果、震災の反動から、全体では前年比68.7%増と6か月連続で増加。

**住宅建築：**足許増加したものの、弱い動き。2月の住宅着工戸数は前年比22.3%増と7か月ぶりに増加。持家が6か月ぶりに増加、貸家が7か月ぶりに増加、分譲住宅が4か月連続で増加。

**設備投資：**足許増加したものの、弱い動き。2月の着工建築物床面積（非居住用）は前年比33.8%増加。鉱工業用が3か月ぶりに増加、商業用が2か月連続で減少、サービス業用が2か月ぶりに増加。

**公共工事：**低調に推移。3月の公共工事請負額（速報値）は、県、市町村が減少したものの、国、独立行政法人等、地方公社が増加し、全体では前年比9.5%増加。

**生産活動：**持ち直し。1月の鉱工業生産指数（季調済）は前月比4.3%上昇し114.1。

**観光：**足踏み。2月の県内主要温泉地の宿泊客数は前年比4.3%減と3か月ぶりに減少。気温が例年より低かったこと、祝日が土曜に重なったことなどが影響した模様。草津が前年比1.9%減と2か月連続で減少、伊香保が9.0%減と2か月ぶりに減少、水上が3.4%減と2か月ぶりに減少。

**雇用情勢：**持ち直しつつある。2月の有効求人倍率（季調済）は前月比0.05ポイント上昇し0.94倍。新規求人数が前年比28.1%増と8か月連続で増加、新規求職者数が5.0%減と6か月連続で減少。

## （トピックス）

○群馬経済研究所の県内トラック運送業のアンケート調査（調査時期：2011年12月、有効回答90社、回答率30.0%）によると、「燃料等コスト上昇」、「貨物量の減少」などの経営上の課題を、「同業者との協力」、「新規先の開拓」などで解決しようとしている業者が多数。今後の事業展開では、「コスト削減、効率化」、「荷主への提案力強化」が重要だとする回答が上位。北関東自動車道全面開通の効果から「輸送時間の短縮化」を挙げた業者が約半数に達した。

○群馬経済研究所の県内企業の原材料や部品、商品の調達等についてのアンケート調査（調査時期：2012年1月、有効回答361社、回答率59.8%）によると、2011年3月以降、代替調達を行った企業は3割近くにおよぶ。調達先では、以前に比べ「東日本」が減り「西日本」と「海外」が増加。代替調達とみられる新規受注があった企業は約3割。受注の継続状況では、「一時的なものだった」、「今後も継続すると思う」が同じ割合で約4割。

## < 主要産業の動向 ー群馬県ー >

- 電気機器**：1月の鉱工業生産指数（季調済）は前月比2.6%低下。原指数は前年比15.3%低下。電気機械が前月比5.0%低下、情報通信機械が17.4%低下、電子部品・デバイスが4.5%上昇。
  
- 輸送機器**：2月の自動車生産は5か月連続で前年比増加。新型車の好調により、登録車生産は2月単月として過去最高台数。軽自動車は生産終了前の需要増に対応する増産も。
  
- 繊維関連**：2月の桐生繊維は洋装品（婦人服地など）の受注が夏物への切り替え時期のため散発的で低調。和装品（帯地中心）は、着物需要の低迷や先行き不透明感などから苦戦。

## 【埼玉県】

**現在の景気：持ち直しの兆し。**

**3か月程度の見通し：**欧州の金融問題、海外経済の減速、原油価格の上昇などから下振れが懸念されるものの、円高がやや修正されたほか、エコカー補助金や住宅版エコポイント復活などの政策効果が期待されることから、持ち直しの動きが強まるとみられている。

**個人消費：**持ち直しの動き。2月の大型小売店販売（店調前）は、飲食料品が堅調に推移し、全体では前年比1.9%増加。乗用車販売（軽含む）は前年比34.8%増加。エコカー補助金の復活からリーマンショック前の水準を上回る。コンビニエンスストア販売は、ホット飲料、米飯類などが好調となるほど、引続き増加。

**住宅建築：**持ち直し。2月の住宅着工戸数は、持家、分譲住宅が増加し、全体では前年比5.5%増加。

**設備投資：**足許弱い動き。2月の建築着工床面積（非居住用）は前年比15.8%減少。法人企業景気予測調査（埼玉県分）によると、2011年度下半期設備投資計画は前回（10-12月）調査比12.2ポイント下方修正され前年同期比16.5%減少。2012年度通期設備投資計画は前年度比25.4%増加する見通し。

**公共工事：**減少基調。2月の公共工事請負額は、国、独立行政法人等、市町村などが増加したものの、県が大幅に減少し、全体では前年比3.8%減少。

**生産活動：**持ち直し。1月の生産指数（季調済）は前月比4.3%上昇し2か月連続で上昇。電気機械が上昇、電子部品・デバイスが上昇、輸送用機械はタイの洪水による供給制約が解消したほか、エコカー補助金の復活から上昇。

**雇用情勢：**持ち直し基調。2月の新規求人倍率（季調済）は前月比0.03ポイント低下し0.96倍、有効求人倍率（季調済）は0.02ポイント上昇し0.56倍、完全失業率（南関東）は0.2ポイント改善し4.3%。

## （トピックス）

○ぶぎん地域経済研究所が2月に実施した「円高が埼玉県内の企業経営に与える影響に関する調査」（回答企業266社）によると、「特に影響は受けていない」という回答が4割を占めたものの、過半の6割の企業が何らかの影響を受けていると回答。「デメリットの方が大きい」が27%、「ほぼデメリットのみ」が18%と合計45%に対して、「ほぼメリット」が4%、「メリットの方が大きい」が13%と合計17%にとどまり、影響を受けた企業の7割強がマイナス面の影響を受けている結果。製造業は「デメリットの方が大きい」、「ほぼデメリットのみ」の合計が、前年（2011年1-3月期）調査比2ポイント増の58%に対し、「ほぼメリット」、「メリットの方が大きい」の合計が4ポイント減の14%。非製造業は、「デメリットの方が大きい」、「ほぼデメリットのみ」の合計が前年比6ポイント増の28%、「ほぼメリット」、「メリットの方が大きい」の合計が4ポイント増の20%。急激な円高の進行に伴い、製造業、非製造業ともにマイナス面の影響が強まる反面、円高メリットを生かそうとする動きも強まっていたことがうかがわれる結果。

## 【千葉県】

**現在の景気：横這い圏内の動き。**

**3か月程度の見通し：**一部持ち直しているものの、低調に推移するとみられている。

**個人消費：**増加。2月の乗用車登録台数（軽含む）は、エコカー補助金の復活などから、全体では前年比32.9%増と5か月連続で増加。百貨店販売は前年比1.8%減少。雑貨が前年比1.9%増と5か月ぶりに増加、家庭用品が3.0%減少、衣料品が2.9%減少。主要7か店の売上は前年比1.4%増加。気温が低めに推移した影響から春物衣料品が伸び悩んだものの、食料品が好調。

**住宅建築：**増加。2月の住宅着工戸数は、持家が前年比8.0%増加、貸家が20.4%増加、分譲住宅が83.9%増加し、全体では前年比33.4%増と4か月ぶりに増加。

**設備投資：**増加。2月の建築物着工床面積（非居住用）は前年比3.6%増加、工事費予定額は5.5%増加。

**公共工事：**増加。2月の公共工事請負額は、市区町村が前年比5.2%減少、地方公社が72.5%減少したものの、国が22.0%増加、独立行政法人等が23.2%増加、県が33.1%増加し、全体では前年比13.1%増と11か月連続で増加。

**輸出：**減少。2月の成田、千葉、木更津3港合計通関輸出額は前年比9.2%減と12か月連続で減少。成田空港は、主要品目のIC（集積回路）が前年比25.3%減少、半導体等製造装置が21.1%減少し、全体では前年比8.3%減少。千葉港は、自動車が前年比2.6倍増となったものの、石油製品が66.4%減少、鉄鋼が43.5%減少し、全体では前年比10.7%減少。木更津港は、主力の鉄鋼が前年比28.6%減少し、全体では前年比27.0%減少。

**生産活動：**上昇。1月の鉱工業生産指数（季調済）は前月比4.7%上昇し87.4。鉄鋼が前月比12.0%上昇、一般機械が15.4%上昇、情報通信機械が2倍上昇、化学が14.4%上昇、電子部品・デバイスが18.7%低下。

**観光：**横這い。ベイエリア（千葉市～浦安市）のホテル客室稼働率は、東京ディズニーランド開園10周年イベントの集客効果などから入園客が回復、外国人ビジネス客が震災前の水準に戻り、前年比増加。犬吠埼・南房総地区の宿泊者数は、余震・津波への懸念と放射能汚染の風評被害、寒さの影響による花やイチゴの生育遅れなどから、低調。2月の成田国際空港航空旅客数（速報値）は前年比3.7%増の245万人。国際線の日本人旅客数が前年比10.7%増加、外国人旅客数が17.5%減少。

**雇用情勢：**横這い。2月の有効求人倍率（季調済）は前月比0.02ポイント低下し0.59倍。新規求人数は、学術研究、専門・技術サービス業が前年比36.4%増加、建設業が25.4%増加し、全体では前年比13.8%増加。新規求職者数は前年比1.5%減少。

## （トピックス）

○3月22日、国土交通省が全国の公示地価を発表。液状化被害の大きかった浦安市が前年比7.5%減と下落幅が最大。放射能汚染の影響から柏市が前年比3.2%減と下落幅がやや拡大。4月13日に大規模アウトレットパークの開業を控えた木更津市が前年比0.1%増加、隣接する君津市が0.1%増加と、4年ぶりに増加。

## 【東京都】

**現在の景気：**依然厳しい状況にあるものの、乗用車販売が増加したほか、労働需給の改善が続くなど、緩やかな持ち直しの動き。

**3か月程度の見通し：**消費者心理の回復、労働需給の改善や住宅着工数の増加など、持ち直しの動きがみられるものの、欧州の債務危機を背景とする海外経済の減速や原油価格の上昇、電力供給制約などが懸念される。

**個人消費：**横這い。2月の百貨店販売（店調後）は、冬物衣料品が好調であったものの、降雪など天候不順の影響から入店客数が減少し、全体では前年比1.9%減と2か月連続で減少。スーパー販売（店調後）も前年比0.2%減と7か月連続で減少。コンビニエンスストア販売（店調前）は、保温食材や日配食が好調となるなど、全体では前年比8.6%増と5か月連続で増加。家電品販売は薄型テレビの減少が継続。乗用車販売は、エコカー補助金制度の復活から、全体では前年比19.2%増と5か月連続で増加。

**住宅建築：**持ち直し。2月の住宅着工戸数は、持家が前年比3.6%減少したものの、貸家が33.5%増加、分譲住宅の戸建が0.8%増加、分譲住宅のマンションが16.7%増加し、全体では前年比17.8%増と3か月ぶりに増加。

**設備投資：**持ち直し。関東財務局の「法人企業景気予測調査（1-3月期調査）」によると、都内の法人企業（資本金1,000万円以上）の2011年度下期の設備投資計画は前年同期比9.5%増加。業種別では、製造業が前年同期比8.6%増加、非製造業が10.1%増加。2012年度上期は前年同期比8.1%増加、業種別では、製造業が8.8%増加、非製造業が7.6%増加。

**公共工事：**減少。2月の公共工事請負額は、国が前年比17.0%増加、独立行政法人等が9.4%増加、都が11.6%増加、市区町村が41.7%増加したものの、地方公社が27.6%減少し、全体では前年比24.8%減と7か月ぶりに減少。

**輸出：**減少。2月の東京税関管内の輸出は前年比5.6%減と5か月連続で減少。仕向け地別では、アジア向けが前年比3.9%減少（うち中国向けが14.0%減少）、米国向けが7.7%減少、EU向けが2.0%減少。

**生産活動：**一進一退。1月の鉱工業生産指数（季調済）は前月比1.9ポイント低下し83.4と2か月ぶりに低下。一般機械が前年比26.0%低下、電気機械が7.7%低下、輸送機械が13.2%上昇、化学が25.0%上昇。

**雇用情勢：**持ち直し。2月の有効求人倍率（季調済）は前月比0.01ポイント上昇し0.97倍。新規求人数は前年比18.5%増と24か月連続で増加。南関東の完全失業率は前月比0.2ポイント改善し4.3%。

## （トピックス）

○東京都民銀行が2月に実施した取引先景況アンケート調査（第111回企業動向調査）によると、自社業況判断DI（季調済）は前回調査（△10.4）比9.8ポイント上昇し△0.6。今後6か月間の先行きDI（季調済）は0.6と、都内の中小企業の景況感は改善が続く見通し。

## 【神奈川県】

**現在の景気：**輸出や生産の回復力が弱く、足踏み状態。

**3か月程度の見通し：**足踏み状態が続くとみられている。

**個人消費：**上向き。2月の大型小売店販売（店調前、速報、季調済）は前月比1.9%減少。

3か月移動平均は増加。3月の乗用車販売台数（軽含む、速報、季調済）は前月比横這い。

3か月移動平均は増加。

**住宅建築：**横這い。2月の住宅着工戸数（季調済）は前月比32.2%増加。3か月移動平均はほぼ横這い。持家、分譲住宅のマンションが減少したものの、貸家、分譲住宅の戸建が増加。

**設備投資：**持ち直し。日本銀行横浜支店の「日銀短観（神奈川県分）」によると、県内企業の2011年度下期の設備投資額（実績見込み）は前年比15.7%増加。前回調査（2011年12月調査）比6.3%下方修正。

**公共工事：**増勢鈍化。3月の公共工事請負額は前年比14.0%減少。3か月移動平均は増勢を維持。国が増加、県が横這い、市町村が減少。

**輸出：**横這い。2月の県内通関輸出額（季調済）は前月比16.1%増加。3か月移動平均は横這い圏内で推移。北米向け、アセアン向けなどが増加しているものの、中国向けやNIEs向けなどが弱い動き。

**生産活動：**横這い。1月の鉱工業生産指数（季調済）は前月比6.0%低下。3か月移動平均は横這い圏内で推移。金属製品、輸送機械が上昇、鉄鋼、化学、電子部品・デバイスなどが低下。

**観光：**横這い。2月の県内ホテルの客室稼働率は、箱根が前年比低下、横浜が上昇。横浜はアジアからの団体客の宿泊が好調。

**雇用情勢：**緩やかな改善。2月の有効求人倍率は前月比同水準の0.52倍。雇用保険被保険者数（季調済）は前月比0.2%増と4か月連続で増加。

## （トピックス）

○浜銀総合研究所の「企業経営予測調査」（対象：県内の中小・中堅企業、3月実施、回答企業567社、回収率43.8%）によると、業況判断D.I.（全産業ベース、業況が「良い」－「悪い」、回答社数構成比、%）は前回調査比3ポイント上昇し△26。円高水準の修正、消費活動の持ち直しなどから、景況感はずかしく上向く。6月末時点の業況判断D.I.（予想）は全産業ベースで3月末比1ポイントの低下を見込む。

## ＜主要産業の動向 ー神奈川県ー＞

- 一般機械**：弱含み。1月の一般機械生産指数（季調済）は前月比14.9%低下し4か月ぶりに低下、3か月移動平均も低下。フラットパネル・ディスプレイ製造装置、蒸気タービン部品、汎用内燃機関などが減産。
- 電気機械**：弱含み。1月の電気機械（旧分類）生産指数（季調済）は前月比12.3%低下、3か月移動平均も低下。電気機械（新分類）が交流発電機、開閉制御装置などの減産から前月比25.3%低下、情報通信機械が外部記憶装置、汎用コンピュータなどの減産から9.2%低下、電子部品・デバイスがコネクタなどの増産から3.3%上昇。
- トラック**：増加。1月の県内トラック生産台数（季調済）は前月比3.7%増の3万5,198台。3か月移動平均も上昇。復興需要に支えられ国内向けが堅調に推移。
- 百貨店**：持ち直し。神奈川県百貨店協会によると、2月の売上高（横浜市内7店舗）は前年比2.7%増と3か月連続で増加。気温が低めに推移した影響から春物衣料品の出足が鈍ったものの、マフラーやストールなどの防寒アイテムが好調。3月は新生活関連商品を中心に前年比増加。

## 【新潟県】

**現在の景気：足踏み。**

**3か月程度の見通し：**海外経済の先行き不透明感などから、足踏み状態が続くとみられている。

**個人消費：**横這い。2月の大型小売店販売（店調後）は前年比1.4%減と2か月ぶりに減少。3月の家電品販売は、節電型エアコンやLED照明など消費電力を抑えた家電製品に動きがみられたものの、薄型テレビが落込み、全体では前年比減少。新車登録台数（軽含む）は、エコカー補助金制度の復活やハイブリッドカーなど低燃費の新型車投入の効果から、前年比66.6%増と7か月連続で増加。

**住宅建築：**一進一退。2月の住宅着工戸数は、持家、分譲住宅が減少したものの、貸家が増加し、全体では前年比6.3%増と2か月連続で増加。

**設備投資：**持ち直し。製造業は、省力化や合理化のための機械設備の更新のほか、一部に生産設備増設の動き。非製造業は、小売などで新規出店や店舗改装などの動き。2月の建築着工床面積（非居住用）は前年比206.8%増と2か月連続で増加。

**公共工事：**増加。2月の公共工事請負額は前年比65.0%増と3か月連続で増加。県、市町村の災害（水害）復旧工事が増加。

**輸出：**弱含み。2月の県内通関輸出額は、一般機械、輸送用機器、化学製品などが減少し、全体では前年比11.2%減と3か月連続で減少。

**生産活動：**一進一退。1月の鉱工業生産指数（季調済）は前月比1.0%低下し3か月ぶりに低下。電子部品・デバイス、化学、食料品などが低下。原指数は前年比2.5%低下し9か月ぶりに低下。

**雇用情勢：**改善の動き。2月の有効求人倍率（季調済）は前月比0.04ポイント上昇し0.82倍と8か月連続で上昇。新規求人数は24か月連続で前年比増加。災害復旧工事の増加から、建設業の新規求人数が高水準で推移。

### （トピックス）

○3月17日～18日、県内88の酒蔵が一堂に会し、500種類にもおよぶ美酒を振る舞う「にいがた酒の陣 2012」を朱鷺メッセで開催。米どころ新潟が誇る日本酒と食文化を広くアピールしようと、県酒造組合などで行く実行委員会が主催。前年が震災の影響から中止されたため、2年ぶりの開催となった今年は過去最高の10万2,000人が来訪。

○県によると、2011年の県内農産物直売所の年間販売額は過去最高の107億300万円。県内の全販売所624か所のうち、年間販売額1,000万円以上の店舗は前年比18か所増の186か所。このうち、1億円以上は前年比4か所増の25か所、1,000万円未満は21か所減の367か所と、販売所の「大規模化」が進展。

○帝国データバンクによると、2011年の県内企業の本社移転状況は、県内転入が12社、県外転出が9社と3年連続で転入超過。転入先・転出先は、東京都が転入8社、転出6社といずれも最多。震災の被災地である岩手県と宮城県から各1社が転入。

## ＜主要産業の動向 ー新潟県ー ＞

- 鋳物**：受注は低調。工作機械向け、自動車向けともに受注は弱含み。例年、年度末にかけてみられる駆け込み受注が、盛り上がりを欠く。受注単価は値が戻っているものの、苦戦が続く。新年度向けの受注の出足は鈍く、先行きは不透明。
- 金属洋食器**：受注は、国内向け、輸出向けともに依然低調。利益確保のため、一部製品を値上げする企業も散見。組合は、洋食器生産 100 周年だった前年に続き、カトラリー検定（カトラリー＝金属洋食器の歴史やテーブルマナーの知識を問う検定試験）の実施を予定。産地を P R することで受注の増加を期待。
- 金属製品**：作業工具は、震災の復旧需要の本格化に備え、増産の動き。
- 一般機械**：I T ・デジタル関連向けは、期末を控え幾分一服感が見られるものの、自動旋盤機の大口需要などから、足許順調。自動車関連は、概ね順調に推移。建設・プラント向けなどの大型機械は、緩やかな回復基調。金型は自動車メーカーからの受注が堅調に推移。工作機械は海外需要の増加から一部の企業で生産水準が上昇。先行きは、国内外の経済動向、為替など不確定要素が多く、慎重な見方が大勢。
- 輸送機械**：自動車販売の回復から国内向けを中心に緩やかに持ち直し。
- 電子部品・デバイス**：タイの洪水の影響による減産分を取り戻すため、足許の生産水準は持ち直しに転じるところがみられるものの、全体では依然低水準。
- 化学**：アジア地域を中心とした海外需要の減速から、生産水準は低調に推移。
- ニット**：春夏物の受注・生産期に入ったものの、消費低迷や不安定な天候から、受注は低調に推移。東京と新潟で、県内繊維産業の新たな魅力を発信するため、デザイナーなどとのコラボによる生活雑貨やインテリア製品の展示会を開催。
- 清酒**：年明け以降の出荷状況はほぼ前年並み。販路別では、スーパー向けが好調に推移。業務店向けは気温の低下による燗酒需要から、普通酒の出荷が増加。

## 【山梨県】

**現在の景気：持ち直しの動きが一服。**

**3か月程度の見通し：回復に向かうとみられている。**

**個人消費：**上向き傾向。2-3月の商況は、依然節約志向が強いものの、イベント関連商品が好調に推移したほか、実用品も上向くなど、全体では底固い動き。2月の乗用車販売は、普通乗用車が前年比18.8%増加、小型乗用車が23.4%増加し、全体では前年比21.3%増と5か月連続で増加。

**住宅建築：**横這い。2月の住宅着工戸数は、分譲住宅が前年比30.0%減と3か月ぶりに減少したものの、持家が2.0%増と6か月ぶりに増加、貸家が31.1%増と4か月ぶりに増加し、全体では前年比3.2%増と5か月ぶりに増加。

**設備投資：**慎重姿勢。医療・介護関連施設、賃貸用建物の新改築など一部に動きがみられるものの、全体では慎重姿勢が継続。

**公共工事：**横這い。2月の公共工事保証請負額は、国が前年比6,408.3%増加、県が92.0%増加、市町村が80.6%増加し、全体では前年比177.5%増加。足許増加しているものの基調は横這い。

**生産活動：**弱い動き。機械は、一部に増産の動きがみられるものの、全体では海外経済の減速、生産の海外シフトなどの影響から、弱含み。地場産業関連は、一部に上向きの兆しがみられるものの、需要の減退や輸入品による圧迫などの影響から、低調。

**観光：**横這い。2月の県内主要観光地は、例年になく寒さの影響などから、宿泊施設の入込みは前年比減少。

**雇用情勢：**横這い。2月の有効求人倍率は前月比同水準の0.65倍。新規求人数は前年比6.3%増と5か月連続で増加。産業別では、建設業、製造業、運輸業・郵便業、宿泊業・飲食サービス業、医療・福祉などが増加、情報通信業、卸売業・小売業、教育・学習支援業、サービス業などが減少。

### (トピックス)

○3月5日、山梨県立大学の学生が「甲斐絹」を使用した名刺入れを開発、商品化したと発表。「甲斐絹」は、独特の光沢とさらりとした風合いを持つ絹織物で、昭和初期まで郡内地域で生産されていたが、化学繊維の普及により衰退。こうしたなか、同大では甲斐絹のビジネスの可能性を研究しており、このほど、合同会社を立ち上げ、名刺入れを商品化。生地は、甲斐絹の復活を目指す有志が出資した企業の「甲斐絹座」が供給。

○3月27日、富士山の世界文化遺産登録に向けて活動を行っている県などが、「富士山世界文化遺産協議会」を発足。同協議会は、県のほか、文化庁、関係自治体などで構成し、遺産を構成する資産の保存や管理・整備、周辺環境の保全などについて検討する。登録に向けては、「富士山世界文化遺産登録推進両県合同会議」、「富士山世界文化遺産登録県推進協議会」なども活動を行っている。

## < 主要産業の動向 ー山梨県ー >

- **一般機械**：半導体製造装置は、受注・生産が減少傾向。液晶製造装置は、液晶パネルに対する需要の減退から、低調に推移。工作機械は、照明用LED製品の需要増加から、LED製造装置関連が増加。
- **電気機械、電子部品・デバイス**：電気機械は、コンピュータ数値制御装置の受注・生産が好調に推移。電子部品・デバイスは、品目により受注・生産にばらつきがみられるものの、総じて減少傾向。水晶振動子やコネクタの受注が減少傾向。
- **輸送機械**：自動車部品は、納入先や車種によるばらつきがみられるものの、タイの洪水の影響による生産遅延を取り戻すために稼働率が上昇するなど、一部に増産の動き。
- **精密機械**：デジタルカメラ部品は、高級機向け部品や試作品などで一定の受注を確保している先がみられるものの、全体では減少傾向。携帯電話用レンズは、生産の海外シフトなどから、受注・生産が減少傾向。医療機器関連部品は、安定的に推移。
- **織物**：ネクタイ地は、足許、受注が前年並みとなっているものの、先行きは不透明。マフラー・ストールは、春先になっても寒さが続いていることから、追加発注が散見。婦人服地は、取扱いブランドにより受注に格差。
- **ニット**：3月に入っても寒さが厳しいことから、春物の受注が遅れ気味。夏物も出足が低調に推移し、受注量の前年比減少を懸念。採算面は、原糸価格が値上がりするなか、受注の小ロット・短納期から効率が低下し、厳しい状況。
- **食品**：ワインは、出荷が前年並みの推移。原料価格上昇分の製品価格への転嫁が難しく、採算に厳しさ。清酒は、出荷が幾分持ち直し。ミネラルウォーターは、震災後に需要が急増したものの、足許の稼働率はメーカー間でばらつき。
- **宝飾**：受注・生産は、納入先や取扱品目によりばらつきがみられるものの、ブライダル関連が底固いほか、プラチナ製品にも動きがみられるなど、全体では上向き。採算は、地金価格上昇分の販売価格への転嫁が難しく、厳しい状況。

## 【長野県】

**現在の景気：足踏み。**

**3か月程度の見通し：**海外景気、為替や原油価格の動向によっては下振れが懸念される。

**個人消費：**持ち直し。2月の大型小売店販売は前年比2.6%増と5か月連続で増加。百貨店販売は、冬物商品が堅調に推移したものの、天候不順の影響から春物衣料品が低調に推移し、全体では前年比0.1%減少。スーパー販売は、生鮮食品が好調となったほか、節分、バレンタインなど歳時商品も順調に推移し、全体では前年比3.0%増加。乗用車販売は前年比22.6%増と5か月連続で増加。

**住宅建築：**低調。2月の住宅着工戸数は、持家が前年比16.6%減少、貸家が31.3%減少、分譲住宅が33.3%減少し、全体では前年比21.7%減と2か月ぶりに減少。

**設備投資：**増額見込み。長野経済研究所の2011年度設備投資動向調査によると、2011年度実績見込額は、製造業が前年度比25.8%増加、非製造業が1.9%増加し、全産業では前年度比20.5%増加。設備投資DI（企業数）は、製造業が+17.4、非製造業が△0.7となり、全産業では+9.1。製造業に増額を見込む企業が多い。

**公共工事：**足許増加したものの、低調。2月の公共工事保証請負額は、市町村が前年比23.8%減少したものの、年度末に工事件数が増加している国が44.5%増加、県が10.4%増加し、全体では前年比12.4%増と3か月ぶりに増加。

**生産活動：**弱含み。1月の生産指数（原指数）は前年比0.5%低下し2か月連続で低下。一般機械が土木建設機械や金型などを中心に上昇、情報通信機械、電子部品・デバイスがデジタル家電など民生品の需要低迷から低下。季調済は前月比6.5%上昇し3か月ぶりに上昇。下げ止まりの兆しがみられるものの、海外需要の低迷や円高による輸出の減少などを受け、弱含み。

**雇用情勢：**横這い。2月の有効求人倍率は前月比同水準の0.80倍。新規求人数は前年比13.7%増と25か月連続で増加。常用新規求人数が前年比12.8%増加、パート新規求人数が13.8%増加。

### （トピックス）

- フジドリームエアラインズ（FDA）によると、2月の県営松本空港発着2路線の利用率は、福岡線が前年比14.4%ポイント上昇し64.6%、札幌線が4.8%ポイント上昇し64.8%。
- 国土交通省によると、2012年の県の公示地価（1月1日時点）は、住宅地が前年比3.2%下落、商業地が4.5%下落。震災などの影響から需要が高まった北佐久郡軽井沢町の住宅地は4年ぶりに前年比同水準。

## 【富山県】

**現在の景気**：持ち直しの動きが続いているものの、そのテンポは緩やかになっている。

**3か月程度の見通し**：緩やかな持ち直しが続くとみられるものの、円高の長期化や欧州経済の不透明感、電力供給の制約など、下押しリスクが懸念される。

**個人消費**：一部持ち直し。2月の大型小売店販売（店調後）は前年比0.4%減少。3月の乗用車販売は前年比75.6%増加。

**住宅建築**：低水準で推移。2月の住宅着工戸数は前年比3.3%減少。

**設備投資**：底入れの兆し。日本銀行富山事務所の調査（3月実施）によると、県内企業の設備投資動向は2011年下期が前年同期比4.7%増加、通期が前年度比11.7%減少。2012年度は前年度比30.3%増加する見込み。2月の建築着工床面積（非居住用）は前年比15.0%減少。

**公共工事**：足許増加したものの、北陸新幹線関連工事が一巡し、低水準で推移。2月の公共工事請負額は前年比53.8%増と2か月連続で増加。

**輸出**：欧州危機の影響から減少。2月の伏木港通関輸出額は前年比14.2%減と4か月連続で減少。

**生産活動**：海外経済減速の影響が一部にみられるものの、総じて回復。1月の鉱工業生産指数（季調済）は前月比0.5%低下し90.6。金属製品、医薬品が上昇、一般機械、電気機械が低下。原指数は前年比1.2%低下。

**観光**：低水準で推移。1月の宇奈月温泉の宿泊客数は前年比2.0%減と5か月連続で減少。

**雇用情勢**：改善の動き。2月の有効求人倍率（季調済）は前月比0.02ポイント上昇し0.96。新規求人数は前年比18.0%増と25か月連続で増加。

### （トピックス）

○日本銀行金沢支店の「ほくりくのさくらレポート」によると、北陸の医薬品製造は、全国で最も安価な電気料金、豊富な水資源などの地理的優位性、周辺産業の集積による一貫生産の強み、を活かし独自の製品開発を行うなど、北陸経済の重要産業として期待できると評価。一方、世界最大手のジェネリックメーカーの国内進出による競争激化などで、受託生産への影響も懸念されると指摘。

○県内の新車登録・届出台数（二輪車除く）は昨年の震災による生産縮小で大きく下落。その後、供給体制の復旧、エコカー補助金の復活から、ハイブリッド車（HV）や低燃費の軽自動車などの販売が増加。一方、4月からエコカー減税対象の基準が引き上げられるなどのマイナス要因もあり、先行きについてディーラー各社は「楽観視できない」と慎重な見方。

○中部経済産業局がまとめた工場立地動向調査（速報値）によると、2011年の県内の立地件数は前年比1件減の13件と記録を開始した1974年以降で最小。13件のうち新設は5件。業種別では鉄鋼業が3件、化学および飲料・たばこ・飼料がそれぞれ2件と続く。震災や円高などの影響から、投資意欲が減退したためとみられる。

< 主要産業の動向 ー富山県ー >

- 金属製品**：1月の生産指数は前年比 8.8%上昇し 88.6。前月比は 8.8%上昇。主力のアルミニウム建材は、震災の復興需要などから住宅向け、ビル向けともに好調に推移。
- 一般機械**：1月の生産指数は前年比 18.7%低下し 92.3。前月比は 2.8%低下。円高や海外経済減速の影響が一部にみられるものの、自動車向けの軸受が高操業。
- 電気機械**：1月の生産指数は前年比 22.7%低下し 38.8。前月比は 5.1%低下。半導体関連、電子機器などはやや増加したものの、海外経済の減速に加え、国内の家電品販売の不振から、低調に推移。
- 医薬品**：1月の生産指数は前年比 22.7%上昇し 235.2。前月比は 4.6%上昇。引続き高水準の生産を維持。在庫指数は前月比 13.8%上昇し 187.9 と引続き高水準。

## 【石川県】

**現在の景気：**一部に停滞感がみられるものの、緩やかな持ち直しの動き。

**3か月程度の見通し：**政策効果や震災からの復興需要を背景に持ち直し基調が続くとみられるものの、海外景気の下振れや原油価格の上昇などの影響が懸念される。

**個人消費：**復調の足取りはまだら模様。2月の大型小売店販売は前年比5.3%減と12か月連続で減少。降雪の影響から、衣料品を中心に春物商品の出足が鈍い。3月の乗用車販売は、新車登録車が前年比67.0%増加、軽自動車は74.9%増加、全体では前年比69.7%増と7か月連続で増加。エコカー補助金の復活や新型車の投入効果から、好調に推移。

**住宅建築：**弱い動き。2月の住宅着工戸数は、分譲住宅が前年比16.7%増加したものの、持家が3.0%減少、貸家が50.3%減少し、全体では前年比20.3%減と5か月連続で減少。

**設備投資：**一進一退。2月の着工建築物床面積（非居住用）は前年比7.3%減と2か月ぶりに減少。

**公共工事：**一進一退。2月の公共工事請負額は、県が前年比40.4%減少、市町が12.1%減少したものの、国が97.0%増加し、全体では前年比7.8%増と2か月ぶりに増加。件数は前年比2.8%増と4か月連続で増加。

**生産活動：**足許低下したものの、持ち直し。1月の鉱工業生産指数（季調済）は前月比0.9%低下し102.6と2か月連続で低下。主要産業である機械は、一般機械が前月比1.2%上昇、輸送機械が2.1%上昇したものの、電気機械が1.5%低下し、全体では前月比4.5%低下。繊維は前月比3.0%上昇。原指数は前年比7.5%低下し2か月連続で低下。

**観光：**浴客数の持ち直しに一服感。2月の県内主要温泉地浴客数（速報値）は前年比10.9%減と3か月連続で減少。震災以降に増えていた関東からの個人客が一服。県内主要観光地の入込み状況（速報値）は前年比15.1%減少。兼六園の入込みは減少。

**雇用情勢：**引続き厳しい状況にあるものの、持ち直しの動きが広がる。2月の有効求人倍率（季調済）は前月比0.01ポイント上昇し0.94倍。新規求人数は23か月連続で前年比増加、有効求人数は22か月連続で増加。

### （トピックス）

○石川県の人口と世帯の推計によると、2011年10月1日現在の推計人口は前年比3,473人減の116万6,315人。比較可能な1971年以降、年間の減少人数が過去最多。出生者から死亡者を差し引いた自然動態は2,430人減少、転入者から転出者を引いた社会動態は1,043人減少。自然動態は7年連続、社会動態は16年連続でともに減少。転入、転出者の状況をみると、隣県、大都市圏との間で移動が多い。転入超過は20道県で、震災の被災地である福島からは144人の転入超と、新潟、富山に次いで多い。東京、大阪など25都府県で転出超過。

## 【福井県】

**現在の景気：**観光が弱含んでいるものの、輸出は好調を維持し、横這い圏内の動き。

**3か月程度の見通し：**横這い圏内で推移するとみられている。

**個人消費：**一進一退。2月の大型小売店販売は、家具・家電・家庭用品が前年比17.2%減少、身の回り品が5.4%減少し、全体では前年比4.3%減と7か月連続で減少。3月の乗用車販売は、エコカー補助金の復活から、普通自動車が増加し、軽自動車も増加。

**住宅建築：**弱含み。2月の住宅着工戸数は、分譲住宅が増加したものの、貸家が63.0%減少、持家が9.3%減少し、全体では2か月連続で減少。

**設備投資：**一進一退。1月の着工床面積（非住宅）は、鉱工業用が前年比61.4%減少、サービス業用が93.6%減少し、全体では前年比55.5%減少。

**公共工事：**一進一退。2月の公共工事請負額は、国が増加したものの、独立行政法人等、県が減少し、全体では前年比8.8%減と3か月連続で減少。

**輸出：**好調。2月の地場産業の眼鏡枠・眼鏡の輸出額は前年比8.9%増加。敦賀港・福井港の通関輸出額は、敦賀港・韓国釜山港間をRORO船（トレーラーが自走して乗り込むことが可能な構造の船）が就航したことから、県外企業の韓国向け液晶テレビ用ガラスが増加し、全体では前年比28.1%増加。

**生産活動：**一進一退。1月の鉱工業生産指数（季調済）は前月比7.9%上昇。機械は前月比6.2%上昇、繊維は0.3%上昇。

**観光：**足許増加したものの、低迷。2月の芦原温泉旅館宿泊者数は前年比6.5%増と3か月ぶりに増加。

**雇用情勢：**横這い。2月の有効求人倍率は前月比同水準の1.15倍。

## 【岐阜県】

**現在の景気：持ち直しの動き。**

**3か月程度の見通し：**原材料価格の高騰や円高に加え、欧州債務問題への懸念も根強いものの、緩やかに回復するとみられている。

**個人消費：**改善傾向。2月の新車登録台数（軽除く）は、エコカー補助金の効果から、全体では前年比30.6%増加。大型小売店販売（店調後）は前年比1.1%増と3か月連続で増加。

**住宅建築：**良化。2月の住宅着工戸数は、持家が前年比6.2%増加、貸家が27.9%増加、分譲住宅が95.3%増加し、全体では前年比22.2%増加。

**設備投資：**一進一退。十六銀行の企業動向調査（3月実施）による1-3月期の設備投資額は、前年同期実績をやや下回る。一方、共立総合研究所の「2012年3月K-R E X（共立地域景況インデックス）」による岐阜県の設備投資K-R E Xは、前回調査（2011年12月調査）比17.0ポイント上昇し△49.5。

**公共工事：**足許増加したものの、低調。2月の公共工事請負額は前年比48.3%増加。2011年度累計は前年度比3.7%減少。

**生産活動：**悪化。1月の鉱工業生産指数は、金属製品が前月比1.8%上昇、一般機械が6.3%上昇、輸送機械が3.8%上昇したものの、化学が43.0%低下、電気機械、電子部品・デバイス、精密機械も低下し、全体では前月比5.4%低下し94.3。

**観光：**一進一退。2月の下呂温泉宿泊者数は前年比1.5%増と10か月連続で増加。一方、長良川温泉宿泊者数は前年比2.8%減少、高山市観光客入込数も3.4%減少。

**雇用情勢：**良化。2月の有効求人倍率（季調済）は前月比0.03ポイント上昇し0.92倍。新規求人倍率（季調済）は前月比0.10ポイント上昇し1.49倍。1月の所定外労働時間（5人以上）は前年比5.1%減の9.2時間。

### （トピックス）

○十六銀行の企業動向調査（対象：地元取引先企業500社）によると、1-3月期の「総合判断指数」B. S. I. は前期(10-12月期)比1.8ポイント低下し△12.4とわずかに悪化。

4-6月期は△7.0と改善予想。原油価格の上昇や円安傾向を受け、「仕入商品・原材料高」を経営上の問題点と考える企業が増加。

○東京商工リサーチによると、3月の県内企業倒産件数（負債額1,000万円以上）は前年比6件減の18件、負債総額は43.9%増の85億4,700万円。

○中部電力によると、2月の県内の販売電力量は前年比0.2%増の13億8,400万kwh。

○国土交通省が発表した地価公示で、県全体の下落率は△2.6%（前年は△2.7%）。住宅地の下落率は△2.3%（前年は△2.4%）、商業地は△3.0%（△3.3%）、工業地は△2.7%（△3.5%）。

○1月の景気動向指数C I（県統計課、2005年=100）は、先行指数が前月比3.6ポイント上昇し96.2、一致指数が1.2ポイント上昇し100.6。

< 主要産業の動向 ー岐阜県ー >

○一般機械：良化。1月の一般機械工業生産指数は前月比6.3%上昇し95.5。

○窯業・土石製品：やや良化。1月の窯業・土石製品工業生産指数は前月比1.2%上昇し82.2。

○繊維：やや良化。1月の繊維工業生産指数は前月比1.1%上昇し65.5。

## 【静岡県】

**現在の景気：**一部持ち直しの動き。

**3か月程度の見通し：**横這い圏内で推移するとみられている。

**個人消費：**持ち直し。3月の乗用車販売は、普通乗用車が前年比79.6%増加、小型乗用車が75.0%増加、軽乗用車が60.6%増加し、全体では前年比70.5%増と6か月連続で増加。2月の百貨店販売は、寒気が強まったことから冬物衣料品が増加、高額品も需要が多く、全体では前年比7.0%増と4か月連続で増加。スーパー販売は前年比0.2%増と11か月ぶりに増加。

**住宅建築：**一進一退。2月の住宅着工戸数は、持家が前年比10.0%増と3か月ぶりに増加、貸家が15.4%増と6か月ぶりに増加、分譲住宅が98.5%増と3か月ぶりに増加し、全体では前年比25.0%増と3か月ぶりに増加。

**設備投資：**持ち直し。3月の貨物車登録台数は前年比73.2%増と9か月連続で増加。2月の着工建築物床面積（非居住用）は前年比58.0%増と4か月連続で増加。

**公共工事：**足許増加したものの、低調。3月の公共工事請負額は、独立行政法人等が前年比75.3%減少したものの、国が38.9%増加、県が30.7%増加し、全体では前年比1.5%増加。件数は前年比17.6%増加。

**輸出：**やや伸び悩み。2月の清水税関支署管内輸出額は、輸送用機器が前年比6.9%減と2か月連続で減少したものの、一般機械が13.2%増と9か月連続で増加、電気機器が6.7%増と4か月連続で増加し、全体では前年比0.8%増と2か月ぶりに増加。清水港は、自動車部品、重電機器、原動機などが増加し、全体では前年比3.1%増と2か月ぶりに増加。

**生産活動：**横這い。1月の鉱工業生産指数（季調済）は前月比0.1%低下し79.0と2か月ぶりに低下。非鉄金属、化学、食料品が上昇、電気機械、輸送機械、ゴム製品が低下。原指数は前年比2.1%低下し3か月連続で低下。2月の産業用大口電力販売量は、自動車関連が増加したものの、非鉄金属などの生産調整から、全体では前年比2.5%減と12か月連続で減少。

**観光：**低調。2月の伊豆地区主要ホテル・旅館の売上高、客単価ともに前年比減少。

**雇用情勢：**持ち直し。2月の有効求人倍率（季調済）は前月比0.06ポイント上昇し0.76倍。新規求人倍率（季調済）は前月比0.22ポイント上昇し1.39倍。

### （トピックス）

○静岡経済研究所の「静岡県内中堅・中小企業設備投資計画調査」（2012年3月実施）によると、県内の中堅・中小企業（348社）の2012年度設備投資計画額は前年度比12.4%減少。業種別では、化学・ゴム製品、パルプ・紙・紙加工品で前年度比増加を見込むものの、鉄鋼・非鉄金属、食料品などで減少する見込み。

○国交省が発表した1月1日現在の地価公示価格によると、県内では5つの土地用途すべてにおいて前年に引続き下落。住宅地では過疎化の進む地域のほか、特に下落幅の大きい地域は沿岸部と浜岡原発周辺で、震災による津波への懸念が窺える。一方、新東名開通の追い風もあり内陸部への工業用地需要は高まる。

## < 主要産業の動向 ー静岡県ー >

- **一般機械**：1月の金属工作機械生産額は3か月連続で前年比増加。前年前半までの好調さが戻りつつある。金型生産額は3か月連続で前年比減少。今後は、タイの復興需要が一巡したこと、世界経済や為替の動向から不透明感が続くことが予想される。
- **輸送機械**：2月の遠州地域の二輪車生産台数は4か月連続で前年比増加。1月の県内自動車部品生産額も7か月連続で前年比増加。今後は、自動車メーカーの海外生産拡大により、製造の海外現地化が遅れている部品メーカーは受注の獲得が難しくなることが予想される。
- **観光**：年末年始の伊豆地区の宿泊客数は概ね前年並みで推移。観光施設への入込客数もほぼ前年並み。一方、「河津桜まつり」や「熱海梅まつり」などの観光イベントは開花の遅れで集客が落ち込み、春先の伊豆地区全体の観光集客にも悪影響が出ている。

## 【愛知県】

**現在の景気：**緩やかな回復。

**3か月程度の見通し：**緩やかに回復するとみられている。

**個人消費：**やや悪化。2月の大型小売店販売（店調後）は、百貨店販売が前年比0.9%減少、スーパー販売が0.8%減少し、全体では前年比0.8%減と7か月連続で減少。3月の名古屋市主要百貨店（5社）の売上（速報）は前年比3.5%増加。衣料品を中心に春物商品が増加したほか、ホワイトデー商戦も好調。

**住宅建築：**悪化。2月の住宅着工戸数は、持家が前年比9.1%減少、貸家が35.0%減少、分譲住宅が1.9%減少し、全体では前年比17.4%減少。

**設備投資：**やや良化。共立総合研究所の「2012年3月K-R E X（共立地域景況インデックス）」によると、設備投資K-R E Xは前回調査（12月調査）比3.8ポイント上昇し△40.2。

**公共工事：**低調。2月の公共工事請負額は前年比4.7%減少。2011年度累計は前年度比9.3%減少。

**輸出：**回復傾向。2月の通関輸出額（4港合計：名古屋港、中部国際空港、衣浦港、三河港）は前年比3.7%増と4か月ぶりに増加。輸出額全体の大半を占める名古屋港の輸出額は半導体等製造装置が前年比42.3%減少、繊維機械が44.1%減少し、全体では前年比0.3%減と3か月連続で減少。中部国際空港は、半導体等製造装置、半導体等電子部品などが増加し、全体では前年比23.1%増と5か月連続で増加。

**生産活動：**良化。1月の鉱工業生産指数（季調済）は、電子部品・デバイスが前月比16.8%低下、化学が3.5%低下、精密機械も低下したものの、鉄鋼業が5.2%上昇、情報通信機械が51.4%上昇、輸送機械が4.9%上昇、一般機械も上昇し、全体では前月比3.7%上昇し97.7。原指数は前年比6.9%上昇。

**観光：**回復基調。2月の中部国際空港の旅客数は前年比4%増の約72.3万人と5か月連続で増加。国際線が前年比5%増の約36.3万人、国内線が3%増の約36.0万人。

**雇用情勢：**良化。2月の有効求人倍率（季調済）は前月比0.03ポイント上昇し1.05倍。新規求人倍率（季調済）は前月比0.13ポイント上昇し1.74倍。

### （トピックス）

- 2月のトヨタ自動車の国内生産（単体）は前年比22.1%増と7か月連続で増加。
- 愛知県では、東三河地域の振興を愛知県全体の飛躍の柱とし、地域資源を活かした振興施策の推進のため本庁組織内に「東三河県庁」を設置。本庁機能の一部を地域の地方機関へ移管し、総合的・自主的な対応が図れるよう機能強化を進める。
- 1月の景気動向指数C I（県統計課）は、先行指数が前月比2.3ポイント上昇し99.4と3か月ぶりに上昇、一致指数が1.4ポイント上昇し93.6と2か月連続で上昇、遅行指数が2.6ポイント上昇し87.2と2か月連続で上昇。一致指数（採用系列8系列）は、輸入通関実績、投資財生産指数、鉱工業生産指数、有効求人数（学卒除く、パート含む）の4系列で寄与度がプラス、実質百貨店販売額、大口電力消費量、企業収益率（製造業）、労働時間投入度の4系列でマイナス。県統計課では「これまでの動きから判断すると、景気は緩やかに持ち直している」とみている。

< 主要産業の動向 ー愛知県ー >

- **一般機械**：やや良化。1月の一般機械工業生産指数は前月比2.0%上昇し78.1。2月の中部経済産業局管内主要8社の金属工作機械受注状況は、総受注高が前年比10.7%減と27か月ぶりに減少。
- **電気機械**：良化。1月の電気機械工業生産指数は前月比2.2%上昇し103.1。
- **輸送機械**：良化。1月の輸送機械工業生産指数は前月比4.9%上昇し110.1。自動車部品は、タイ洪水の影響による減少を挽回する動きに加え、引続き海外需要が好調なことから増加。航空機体部品は、メンテナンス需要に動きがあることから、緩やかな増加基調。
- **窯業・土石製品**：良化。1月の窯業・土石製品工業生産指数は前月比5.0%上昇し75.8。

## 【三重県】

現在の景気：持ち直し。

3か月程度の見通し：緩やかな持ち直し基調で推移するとみられている。

個人消費：緩やかに持ち直し。3月の乗用車販売は前年比69.4%増と7か月連続で増加、軽乗用車販売は59.5%増と6か月連続で増加。2月の大型小売店販売（店調前）は前年比0.5%減と7か月連続で減少。店調後は前年比1.7%減と7か月連続で減少。

住宅建築：低水準で推移。2月の住宅着工戸数は、持家が前年比3.9%増と2か月連続で増加、分譲住宅が3.0%増と2か月連続で増加したものの、貸家が36.2%減と2か月ぶりに減少し、全体では前年比11.2%減と2か月ぶりに減少。

設備投資：堅調。3月の貨物車登録台数（軽除く）は前年比42.2%増と8か月連続で増加。2月の建築着工床面積（非居住用）は前年比12.0%増と4か月連続で増加。1月の資本財生産は前年比28.7%増と24か月連続で増加。

公共工事：一進一退。3月の公共工事請負額は前年比17.0%減と3か月ぶりに減少。件数は前年比43.9%増と4か月連続で増加。

輸出：下振れ。2月の四日市港通関輸出額は前年比20.1%減と3か月連続で減少。主要製品の自動車は前年比26.4%減と2か月ぶりに減少、自動車の部分品が2.1%減と19か月連続で減少、石油製品、プラスチック、半導体電子部品なども減少。

生産活動：持ち直し。1月の鉱工業生産指数（季調済）は前月比8.8%上昇し2か月連続で上昇。輸送機械が前月比17.0%上昇、金属製品が67.7%上昇、プラスチック製品が30.5%上昇、一般機械が3.4%低下、情報通信機械が35.1%低下。原指数は前年比0.1%上昇し5か月ぶりに上昇。2月の大口電力使用量は前年比10.1%増と10か月連続で増加。

観光：減少傾向。1月の県内主要水族館入場者数は前年比3.4%減と5か月連続で減少。

雇用情勢：持ち直し。2月の有効求人倍率（季調済）は前月比0.04ポイント上昇し0.85倍と8か月連続で上昇。正社員の有効求人倍率は前年比0.09ポイント上昇し0.50倍。

### （トピックス）

○3月26日、中日本高速道路は、東名阪自動車道の「四日市東IC－鈴鹿IC」を、渋滞対策のため年末までに暫定3車線にすると発表。同区間は、伊勢湾岸自動車道や新名神高速道路の開通などに伴って、通行量が1日約10万台に増え、朝夕を中心に10km単位の渋滞も多発。道路全体の幅を変えず、車線の幅員を縮小して新たな1車線を設置し、伊勢神宮の式年遷宮（2013年）までに間に合わせる計画。

○3月26日、太陽電池のカナダ最大手メーカーの日本法人「カナディアン・ソーラー・ジャパン」が、津市にメガソーラーを建設する計画を発表。発電量は一般家庭500～600軒分に相当する2,000kwで、外資系メーカーによるメガソーラーの建設は国内初のケース。津市内に約4haの遊休地を保有するエレクトロニクス商社「伯東」と共同で実施するもので、本年度中に稼働を開始して全量を電力会社に売電する計画。

○4月7日、来年の第62回神宮式年遷宮を記念して、伊勢神宮外宮（伊勢市）に「せんぐう館」がオープン。せんぐう館は、式年遷宮の伝統や美についてより理解を深める拠点として、また休憩施設を備えた参宮の憩いの場としての役割を果たす。

## 【滋賀県】

現在の景気：持ち直し。

3か月程度の見通し：緩やかながら回復に向けた動きが出てくるとみられている。

個人消費：回復の動き。2月の大型小売店販売（店調前）は、ウエイトの高い飲食料品が19か月連続で増加、その他の衣料品（寝装具など）が12か月連続で増加し、全体では前年比0.1%増と7か月ぶりに増加。店調後は前年比0.3%増と7か月ぶりに増加。新車登録台数（普通・小型乗用車）は前年比39.4%増と6か月連続で増加。軽乗用車販売は前年比40.5%増と5か月連続で増加。

住宅建築：増加傾向。2月の住宅着工戸数は、貸家が減少したものの、持家が5か月ぶりに増加、分譲住宅が3か月連続で増加し、全体では前年比5.7%増と2か月連続で増加。

設備投資：一部伸び悩み。2月の建築着工床面積（非居住用）は前年比6.5%減と3か月ぶりに減少。サービス業用が6か月連続で増加したものの、工業用、商業用ともに低水準に止まり減少。トラック新車登録台数は前年比19.0%増と2か月連続で増加。

公共工事：増加。2月の公共工事は、請負件数が前年比17.6%増加、請負額が30.9%増加。

生産活動：持ち直し。1月の鉱工業生産指数（原指数）は前年比4.5%低下し5か月連続で低下。季調済は前月比5.1%上昇。金属製品、一般機械、精密機械などが上昇。出荷指数（原指数）は前年比1.3%上昇し5か月ぶりに上昇、在庫指数（原指数）は17.0%上昇。

観光：伸び悩み。2月の県内主要観光地入込客数は、長浜城や彦根城、安土などの歴史観光施設が大幅に減少、道の駅も減少。

雇用情勢：一部改善はみられるものの、依然厳しい状況。2月の有効求人倍率は前月比0.02ポイント上昇し0.65倍。12月の常用雇用指数は前年比0.8%上昇し12か月連続で上昇、製造業の所定外労働時間指数は2.7%低下し2か月連続で低下。

### （トピックス）

○2011年の県内工場立地は、件数が前年(24件)比3件増の27件、敷地面積が前年(34.6ha)比ほぼ同水準の33.1ha。地域別では、甲賀地域、東近江地域などほぼ全地域に立地。地元雇用者予定数は、甲賀地域が213人と最多。

○2012年の県内地価公示によると、全体では前年比1.3%下落（前年：2.5%下落）と4年連続で下落したものの下落幅は縮小。用途別は、住宅地が前年比1.2%下落（前年：2.3%下落）、商業地が1.4%下落（前年：3.1%下落）。前年からの継続地点338地点のうち、上昇は4地点。上昇地点が現れたのは4年ぶり。

< 主要産業の動向 ー滋賀県ー >

- **一般機械**：半導体製造装置、コンベア、汎用内燃機関、フラットパネル・ディスプレイ製造装置、軸受、装輪式トラクタ、化学繊維機械などの生産・出荷が増加。歯切り盤・歯車仕上げ機械、機械プレス、専用機、製本機械などの生産・出荷が減少。飲料用自動販売機、乗用車エアコン用冷凍機、一般冷凍空調用冷凍機などの在庫が減少。
- **電気機械**：電気かみそりなどの生産・出荷が増加。電気冷蔵庫、食器洗い乾燥機などの生産・出荷が減少。電気冷蔵庫、電気かみそりなどの在庫が増加。エアコン、空気清浄機、電気掃除機などの在庫が減少。
- **輸送機械**：船用ディーゼル機関、シャシー・車体部品などの生産・出荷が増加。フォークリフトトラックの在庫が増加。自動車の在庫が減少。
- **精密機械**：工業用計重機などの生産・出荷が増加。
- **窯業・土石製品**：コンデンサー素子などの生産・出荷が増加。圧電素子などの生産・出荷が減少。無アルカリガラス基板などの在庫が減少。
- **化学**：医薬品、化粧品などの生産・出荷が減少。

## 【京都府】

**現在の景気：**家計部門は緩やかに持ち直しているものの、輸出や生産が減少し、足踏み。

**3か月程度の見通し：**円高の一服などで幾分明るい兆しがみられるものの、原油の高騰などから、下振れが懸念される。

**個人消費：**緩やかな持ち直し。2月の百貨店販売は、衣料品、食料品が増加したものの、全体では前年比0.9%減と2か月連続で減少。スーパー販売は、食料品が前年比3.8%増加し、全体では前年比1.0%増と7か月ぶりに増加。乗用車販売は前年比25.6%増と5か月連続で増加、軽自動車は29.9%増と5か月連続で増加。エコカー補助金の復活を追い風に好調が持続。

**住宅建築：**持ち直し。2月の住宅着工戸数は前年比14.3%増と3か月連続で増加。幾分伸び悩んでいるものの、基調は持ち直し。

**設備投資：**緩やかな持ち直し。大企業を中心に持ち直しの動きが続いているものの、中小企業では足許下方修正が目立ち、慎重姿勢が散見。

**公共工事：**一進一退。2月の公共工事請負額は前年比10.9%増と2か月ぶりに増加。下げ止まっているものの、水準は低調に推移。

**輸出：**弱含み。半導体関連が幾分弱含み、携帯電話やパソコン関連なども減少基調。

**生産活動：**足踏み。1月の鉱工業生産指数（原指数）は前年比8.3%低下し12か月連続で低下。水準は89.1（季調済）と幾分弱めの動き。輸送機械は回復が顕著なもの、電気機械が大幅に減少するなど、全体では機械の減速が継続。

**観光：**底固い動き。2月の市内主要ホテルの客室稼働率は前年比3.5%ポイント低下し71.1%と4か月ぶりに低下。宿泊者数も前年比4.2%減と4か月ぶりに減少。増加基調は一服したもの、底固い動き。

**雇用情勢：**緩やかな改善基調。2月の有効求人倍率は前月比0.01ポイント上昇し0.73倍と4か月連続で上昇。1月の所定外労働時間は前年比3.3%増と8か月連続で増加。現金給与総額は前年比1.4%増と7か月ぶりに増加。

## （トピックス）

○3月20日、京都市が制定した染色、工芸をはじめ伝統産業の魅力を発信する「伝統産業の日」が10年目を迎えたことから、3月10日～20日に作品展や体験イベントなど過去最大の67事業を開催。伝統産業を取り巻く環境は厳しさが続き、2006年度に2,703億円だった伝統産業出荷額は、2010年度には2,477億円と約8.4%減少。こうした状況を受け、今回はみやこめっせ（左京区）で催された「京ものフェスティバル」（3月16日～18日）において、京友禅の着物や西陣織の帯に関する「お<sup>あつら</sup>誂え相談窓口」を設け、京都誂友禅工業協同組合の職人らが顧客の要望や相談に応じたほか、着物姿で記念撮影や茶席を楽しむ「きものde記念撮影in平安神宮」を開催するなど、消費者向けに多彩なイベントを展開。京都市では、伝統産業製品のある暮らしを提案するなかで販路開拓につなげたいとしている。

## < 主要産業の動向 ー 京都府 ー >

- **一般・精密機械**：下げ止まり。自動車向けは生産が増加、環境関連向けが持ち直し、半導体関連向けは在庫調整の進展がみられるなど、全体では下げ止まり。
- **電子部品・デバイス**：高水準の生産を継続しているものの、基調は弱含み。自動車、スマートフォン向けが増加、デジタルカメラ、環境関連向けが持ち直しているものの、パソコンや薄型テレビなどの家電向けが減少し、全体では幾分弱含み。
- **輸送機械**：自動車向けの生産がエコカー補助金の復活を追い風に増加。回復テンポを早めている。
- **和装関連**：厳しい減産調整のなか、震災の影響（販売先の被災）が長引き、減少幅が拡大。ちりめん生産量（丹後産地）は、12月が前年比11.5%減少、1月が8.7%減少、2月が9.5%減と10か月連続で減少。帯地の出荷額（西陣産地）は、11月が前年比2.5%増加、12月が7.2%減少、1月が9.5%減と2か月連続で減少。数量ベースでは一貫して前年比減少が続く。
- **清酒**：伏見の清酒蔵出量は、11月が前年比3.2%減少、12月が1.9%減少、1月が15.8%増と3か月ぶりに増加。底入れを探る動きのなか、一進一退で推移。

## 【大阪府】

**現在の景気：**一部弱含んでいるものの、持ち直しの動き。

**3か月程度の見通し：**電力需要、為替や海外経済の影響などから、下振れが懸念される。

**個人消費：**持ち直し。2月の大型小売店販売（速報、店調前）は、飲食料品が前年比4.8%増加、衣料品が7.2%増加し、全体では前年比4.3%増と11か月連続で増加。1-2月累計は前年同期比3.1%増加。

**住宅建築：**持ち直しの動き。2月の住宅着工戸数は、貸家が前年比31.9%増と2か月連続で増加、分譲住宅が2.5%増と2か月連続で増加し、全体では前年比9.3%増と2か月連続で増加。1-2月累計は前年同期比7.5%増加。

**設備投資：**弱含み。日銀短観（3月調査）によると2012年度上期の近畿地区設備投資は、製造業全体で前年同期比0.3%減少、非製造業全体で0.3%増加。中小企業（資本金1億円未満）は、製造業が前年同期比8.6%減少、非製造業が11.7%減少。

**公共工事：**弱含み。2月の公共工事は、請負件数が前年比6.3%増と14か月ぶりに増加、請負額が99.0%増と3か月ぶりに増加。1-2月累計は、請負件数が前年同期比8.4%減少、請負額が14.9%増加。足許増加しているものの基調は弱含み。

**輸出：**弱含み。2月の大阪税関管内通関輸出額（4港合計速報：大阪港、堺港、岸和田港、関西空港）は前年比8.5%減と6か月連続で減少。うち関西空港は、半導体など電子部品が前年比15.3%増加したものの、科学光学機器が4.2%減少、電気回路機器が2.1%減少。国別では、中国向けが前年比4.3%増加、米国向けが22.8%減少、EU向けが24.2%減少。1-2月累計は前年同期比8.3%減少。

**生産活動：**弱含み。1月の鉱工業生産指数（季調済）は前月比4.2%上昇し3か月ぶりに上昇。原指数は前年比2.7%低下し3か月連続で低下。出荷指数（季調済）は前月比1.7%上昇し2か月連続で上昇。原指数は前年比2.9%低下し3か月連続で低下。

**観光：**弱含み。10-12月の府内宿泊者数は前年同期比5.6%減少、宿泊単価は41.7%減少。

**雇用情勢：**上向き。2月の有効求人倍率は前月比0.01ポイント上昇し0.71倍。新規求人数は前年比10.7%増加、新規求職者数は5.5%減少。1-2月の新規求人数は前年同期比9.4%増加、新規求職者数は5.1%減少。1月の現金給与総額（事業所規模5人以上、名目賃金指数）は前年比0.1%減と4か月ぶりに減少、所定外労働時間は5.5%増と5か月連続で増加。

### （トピックス）

○4月1日、関西国際空港と大阪国際空港の2空港を一体運営（経営統合）する「新関西国際空港会社」が発足。政府は将来的に2空港の運営権を民間に売却し、関空の負債を圧縮する計画があることから、運営権の高値売却を図るためにも、関空は「国際ハブ空港」としての機能を高めていく必要がある。

○4月8日、大阪を代表する多目的ホールの旧・大阪厚生年金会館が、リノベーションにより安全性と環境性を向上させた「オリックス劇場」としてグランドオープン。エレベーターの新設、女性用トイレの増設、バリアフリーの導入など、利用者がより快適に過せるよう工夫が凝らされている。

## 【奈良県】

**現在の景気：**一部に持ち直しの動きがみられるものの、横這い圏内の動き。

**3か月程度の見通し：**弱含みで推移するとみられている。

**個人消費：**乗用車販売は5か月連続で増加。2月の大型小売店販売（店調前）は、飲食料品が増加したものの、衣料品が減少し、全体では前年比0.1%減と7か月連続で減少。店調後は前年比1.2%減と48か月連続で減少。乗用車販売は、新車登録台数（普通・小型乗用車）が前年比40.2%増と5か月連続で増加、軽乗用車が44.3%増と5か月連続で増加し、全体では前年比41.6%増と5か月連続で増加。

**住宅建築：**4か月連続で増加。2月の住宅着工戸数は、持家、貸家が減少したものの、分譲住宅が増加し、全体では前年比18.0%増と4か月連続で増加。

**設備投資：**2か月連続で減少。1月の建築着工床面積（非居住用）は前年比15.8%減と2か月連続で減少。宿泊業・飲食サービス業用、農林水産業用などが増加、卸売業・小売業、医療・福祉用などが減少。

**公共工事：**2か月連続で減少。2月の公共工事請負額は、国、その他の公共的団体が増加したものの、独立行政法人等、県、市町村が減少し、全体では前年比3.2%減と2か月連続で減少。

**生産活動：**2か月ぶりに上昇。1月の鉱工業生産指数（季調済）は前月比2.9%上昇し75.6と2か月ぶりに上昇。金属製品、一般機械など9業種が上昇、電気機械、ゴム製品など8業種が低下。在庫指数（季調済）は前月比3.2%上昇し99.4と3か月連続で上昇。

**観光：**客室稼働率は2か月連続で上昇。2月の奈良市内主要ホテル7社（8ホテル）の客室稼働率は前年比2.9%ポイント上昇し52.9%と2か月連続で上昇。宿泊客数は前年比2.3%増加。

**雇用情勢：**有効求人倍率は上昇。2月の有効求人倍率（季調済）は前月比0.02ポイント上昇し0.67倍。有効求人数が前月比7.4%増加、有効求職者数が5.1%増加。

### （トピックス）

○県は、観光オフシーズンの梅雨の集客対策として、6月14日～24日に音楽祭「ムジークフェストなら2012」の開催を計画。期間中はホールだけでなく、社寺、駅前などの多彩な場所を会場に、クラシック、ジャズ、オペラなどが楽しめるイベントを開催。6月14日のオープニングには、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団の史上2人目の日本人コンサートマスター、樫本大進さんらを迎え、県文化会館でコンサートを開催。

## ＜主要産業の動向 ー奈良県ー ＞

○**繊維関連産業（ニット）**：「繊維・生活用品統計月報」（経済産業省）によると、2011年10-12月のニット・衣服縫製品外衣の生産数量は20,600千点と前年同期（21,898千点）比5.9%減少。消費マインドの低下に加え、本格的な寒さの訪れが遅れたことから需要が低迷。冬物衣料品の生産や受注を抑えたメーカー・小売店が多く、その後の長引く厳冬から、現在では品薄の状態が続く。冬物衣料品の生産を続けていた企業のなかには、受注の増加に生産が追いつかない先も散見。冬物用原糸の生産減による品薄から価格が上昇する一方、製品価格への転嫁は進まず、収益は伸び悩み。中国に進出した企業のなかには、人件費高騰によるコストの増加から資金繰りが悪化し、倒産する企業も。期待していたウォームビズは、機能性肌着などインナーの受注が増加したものの、着ぶくれを嫌い、セーターなどアウターが低調。県ニット協同組合の2011年度「ニット製造企業実態調査」によると、従業者数30人未満の企業が76.9%。生産量は、国内生産が86.7%、海外生産が13.3%。取扱い製品は、OEM製品が60.5%、自社オリジナル製品が39.5%。2012年度の売上予測は、悪化が30.8%、良好が7.7%。2012年1月、同組合の組合加盟45社の企業概要と主要設備を一覧にした「企業ガイドブック」を発行。県ニット産業のハンドブックとして、各企業が持つ強みをアピールし、新商品開発に向けた企業間連携の強化などを図る狙い。

○**製薬業**：「薬事工業生産動態統計年報」（厚生労働省）によると、2010年の県内の医薬品生産状況は、生産額が362億円（全国32位、前年31位）と前年比144億円減少（前年比28.5%減少、全国は0.6%減少）。国産の自社製造が前年比3.1%増加しているものの、県内大手メーカーにおける国産の委託製造（OEM生産など）が257億円から131億円へ126億円減少（前年比48.9%減少）したことが大幅な減少の主要因。2008年との比較では10.5%増の水準。最近の生産・出荷状況は、委託製造が減少傾向、自社製造が前年並みの水準。製品価格は、前年比幾分低下。県内製薬業の今年度の生産・出荷は、震災の影響による特殊需要が減少し、薬価基準の改定に伴う価格引き下げの影響や国内大手製薬メーカーにおける外注生産の自社内への取込みの動きなどから、引続き幾分減少する見込み。配置薬は、減少傾向が続いており、配置薬が主力のメーカーでは厳しい業況が続く。健康補助食品などに参入している企業では、全体の売上をある程度維持できている模様。ただし、価格競争が激しく、利益率は低水準。

## 【和歌山県】

**現在の景気：足踏み。**

**3か月程度の見通し：**低調ながら持ち直しの動きに向かうとみられるものの、海外経済の減速、原材料高などの影響が懸念される。

**個人消費：**緩やかな持ち直し。2月の大型小売店販売（店調前）は前年比1.7%増と5か月連続で増加。店調後は前年比3.3%減と4か月連続で減少。乗用車販売（貨物車、その他を含む）は前年比37.9%増と5か月連続で増加、軽自動車販売（貨物車、その他を含む）も5か月連続で増加。

**住宅建築：**減少傾向。2月の住宅着工戸数は2か月ぶりに前年比減少、床面積も2か月ぶりに減少。

**設備投資：**持ち直しの動きに一服感。1月の民間建設工事受注高は前年比55.3%増と4か月ぶりに増加。中小企業の設備資金需要は減速傾向。

**公共工事：**一進一退。2月の公共工事請負額は前年比231.0%増と2か月連続で増加。

**輸出：**増加。2月の和歌山税関支署管内通関輸出額（円ベース、速報値）は前年比17.2%増と14か月連続で増加。

**生産活動：**弱含み。1月の鉱工業生産指数（季調済）は前月比5.0ポイント上昇し103.4と5か月ぶりに上昇。原指数は前年比5.0%低下し5か月連続で低下。鉄鋼、一般機械、窯業・土石製品、化学など8業種が上昇、金属製品、電気機械、繊維など6業種が低下。

**観光：**弱い動き。3月の白浜温泉宿泊客数（脱退施設調整後）は震災の影響から大幅に減少した前年比9.6%増と9か月ぶりに増加。

**雇用情勢：**持ち直しの動きが一服。2月の有効求人倍率（季調済）は前月比0.04ポイント低下し0.72倍と5か月ぶりに低下。有効求職者数は11か月連続で前年比減少、有効求人数は22か月ぶりに減少。

### （トピックス）

- 3月19日、和歌山県立医大は、産官学が一体となって医療機器の開発を進める「医療機器開発コンソーシアム和歌山（仮称）」を2012年度に発足させる計画を発表。県立医大が医療現場でニーズを掘り起こし、和歌山大学や近畿大学理工学部が技術を提供、医療機器開発意欲の高い県内企業と連携して共同研究に取り組む。
- 中小企業研究センターが、経済的、社会的に優れた成果をあげている中小企業を顕彰し、国内の中小企業の発展に役立てることを目的として主催している「グッドカンパニー大賞」に、県から2社選出。高機能製ポリマーの原料を開発・製造した「セイカ」（和歌山市）が優秀企業賞、発酵済み冷凍パン生地を開発を評価された「ブルーランジュリーピノキオ」（海南市）が新技術事業化推進賞を受賞。
- 県北部の産業拠点「紀北橋本エコヒルズ」に、食用油メーカーの岡村製油（大阪府）、洗浄剤の理工協産（東京都）、食品用香料の富士香料化工（大阪府）の工場進出が決定。整備が進む京奈和自動車道など交通アクセスに恵まれた点を売り込んだ結果、すでに5社が進出し操業中。

## < 主要産業の動向 ー和歌山県ー >

- **機械製造**：島精機製作所は、無縫製ニットを作るホールガーメント横編み機「MACH」シリーズの新型機種と、島正博社長が米国人以外で初めて米国繊維歴史博物館に殿堂入りしたことを発表。同社は名だたるスーパーブランドがニット衣料制作に使用している同社の横編み機を活用して、自ら衣料品販売事業にも本格参入。高島屋東京店にニット衣料専門店「SAMAND'OR」（サマンドール）の第1号店を開店。
- **機械製造**：ノーリツ鋼機グループ会社のNKワークスは、同社開発の画像処理技術などを活かした画像解析ソフト「AccuSmartVision」を警察や検察などの公的捜査機関向けに発売。同ソフトはあらゆる防犯カメラの動画や静止画をワンステップで自動的に鮮明化することが可能。

## 【兵庫県】

現在の景気：足踏み。

3か月程度の見通し：足踏み状態が幾分緩和するとみられている。

個人消費：一部に弱めの動きがみられるものの、緩やかな持ち直し。2月の百貨店販売は前年比2.3%増と2か月ぶりに増加。営業日数が前年より1日多かったことや一部店舗のセール効果から増加したものの、春物衣料品が振るわず、全体では幾分鈍い動き。乗用車販売は、普通乗用車、小型乗用車、軽乗用車ともに増加し、全体では前年比31.4%増と5か月連続で増加。

住宅建築：足許減少したものの、底打ちの兆し。2月の住宅着工戸数は、貸家が増加したものの、持家、分譲住宅が減少し、全体では前年比11.5%減と5か月ぶりに減少。

設備投資：持ち直し。日銀短観（3月調査）によると、2012年度の設備投資計画は、非製造業が減少を見込んでいるものの、製造業が増加を見込み、全産業では前年度比3.9%増加。

2月の建築着工床面積（非居住用）は前年比30.2%減少。

公共工事：減少。2月の公共工事請負額は、県、神戸市、神戸市を除く市町などが増加したものの、国、独立行政法人等、その他の団体などが減少し、全体では前年比29.9%減と15か月連続で減少。

輸出：幾分弱含み。2月の県内通関輸出額は、米国向けが増加したものの、アジア向け、EU向けが減少し、全体では前年比1.3%減と3か月連続で減少。

生産活動：幾分弱含み。1月の鉱工業生産指数（季調済）は前月比3.0%上昇し2か月連続で上昇。原指数は前年比3.9%上昇。鉄鋼は、国内自動車向けの粗鋼、鋼材が持ち直しているものの、輸出向けが価格の軟化などに伴って減少し、全体では弱含み。一般機械は、原動機、建設機械などを中心に高水準の操業を継続しているものの、一部に生産水準を引き下げる動き。電気機械・電子部品は、鉄道車両向けが高水準の生産を継続、自動車向けはタイの洪水の影響が緩和し持ち直しているものの、家電向けは減産が継続。輸送用機械は、自動車関連が高操業、造船・重機が生産水準を引き下げ。

観光：持ち直し。2月の神戸市内主要10ホテルの客室稼働率は、大型コンベンションが開催されたものの、インバウンドツアーが減少し、全体では前年比0.1%ポイント低下し65.7%。

雇用情勢：依然厳しい状況にあるものの、改善基調。2月の有効求人倍率は前月比0.01ポイント上昇し0.66倍。新規求人数は前年比7.2%増加。

## （トピックス）

○県の但馬水産事務所によると、2011年度の但馬地域ズワイガニ漁は、総漁獲量が1,402tと前年度比1%減少。マツバガニは漁獲量が増加したものの、大型が少なく単価の低下から、漁獲金額は減少。セコガニとミズガニは漁獲量が減少したものの、単価の上昇から、漁獲金額は増加。ズワイガニ漁は2008年度までの5年間、1,600tを超え、「資源回復の兆し」と歓迎されたが、2009年度は前年度比で約2割減少し、その後は1,400t台で推移。但馬の漁業者はセコガニやミズガニで自主的な漁獲制限をしているものの、資源保護の強化を求める声が強まっている。

## 【鳥取県】

**現在の景気**：個人消費や公共工事など一部で前年を上回る動きもあるものの、雇用情勢などが足踏み。

**3か月程度の見通し**：為替動向、欧州情勢、原油価格などの海外情勢の不透明感に加え、復興需要が見込めないことから、足踏み状態が続くとみられている。

**個人消費**：回復の兆し。2月の百貨店販売は2か月ぶりに減少。自動車販売は、乗用車が6か月連続で増加、軽自動車が5か月連続で増加し、全体では前年比23.1%増と5か月連続で増加。

**住宅建築**：一進一退。2月の住宅着工戸数は、持家、貸家が増加し、全体では3か月ぶりに増加。

**設備投資**：足踏み。2月の着工建築物工事額は2か月連続で減少。鉱業、砕石業、砂利採取業、建設業が増加したものの、製造業、卸・小売業、医療・福祉などが減少。

**公共工事**：回復の兆し。2月の公共工事請負額は、国が前年比63.6%増加、県が41.5%増加、市町村が67.9%増加し、全体では3か月連続で増加。

**輸出**：低迷。2月の境税関支署管内輸出額は前年比33.4%減と7か月連続で減少。

**生産活動**：足許上昇したものの、低迷。1月の鉱工業生産指数（季調済）は2か月ぶりに前月比上昇。原指数は12か月ぶりに前年比上昇。

**観光**：一進一退。2月の主要温泉地宿泊人数は、羽合温泉が3か月連続で増加したものの、三朝温泉が4か月連続で減少、皆生温泉が8か月連続で減少し、全体では2か月ぶりに減少。

**雇用情勢**：停滞。2月の有効求人倍率は前月比0.02ポイント低下し0.69倍。新規求人倍率は前月比0.12ポイント上昇し1.26倍。雇用保険受給者数は3か月連続で増加。

## < 主要産業の動向 ー鳥取県ー >

- **電子部品・デバイス**：停滞。1月の生産指数（原指数）は、半導体素子（その他の半導体素子など）、その他電子部品（バックライトなど）、電子・通信機器用部分品（トランスなど）が低下し、11 か月連続で前年比低下。出荷指数（原指数）は2 か月ぶりに前年比低下、在庫指数（原指数）は5 か月連続で低下。
  
- **食料品**：上向き。1月の生産指数（原指数）は、冷凍水産食品、その他の食料品（ペットフードなど）が上昇し、12 か月連続で前年比上昇。出荷指数（原指数）は10 か月連続で前年比上昇、在庫指数（原指数）は11 か月連続で上昇。
  
- **水産業**：2月の境港の漁獲高は9,433 t と5 か月連続で増加。漁獲金額は14 億800 万円と2 か月連続で減少。

## 【島根県】

現在の景気：設備投資は回復しているものの、生産活動は横這いで推移、公共投資は低水準で推移するなど、横這い圏内の動き。

3か月程度の見通し：設備投資が堅調に推移し、公共投資、個人消費は持ち直しの動きが見込まれることから、緩やかに持ち直すとみられている。

個人消費：一部に底入れの兆し。2月の大型小売店販売は3か月連続で増加。乗用車販売（軽含む）は5か月連続で増加。

住宅建築：堅調に推移。2月の住宅着工戸数は2か月連続で増加。

設備投資：増加計画。山陰経済経営研究所の「山陰地方企業動向調査（平成24年3月）」によると、2012年度の設備投資計画は全産業で前年度を上回る計画。

公共工事：水準は低いものの、底入れの兆し。2月の公共工事請負額は11か月ぶりに前年比増加。

生産活動：横這い圏内。1月の鉱工業生産指数（季調済）は2か月連続で上昇。業種間ではらつきがあるものの、横這い圏内で推移。

観光：減速傾向。1月の主要温泉地宿泊人員は6か月連続で前年比減少。主要観光施設利用者数は7か月ぶりに前年比増加。

雇用情勢：足許低下したものの、緩やかに回復。2月の有効求人倍率（季調済）は前月比0.01ポイント低下し0.91倍。

### （トピックス）

○山陰経済経営研究所の「山陰地方企業動向調査（平成24年3月）」（対象：鳥取・島根両県内の主要企業）によると、2011年度下期（10-3月）の自社の業況判断BSI（「上昇」-「下降」）は、製造業（ $\Delta 6.2 \rightarrow \Delta 10.6$ ）が悪化したものの、非製造業（ $\Delta 24.5 \rightarrow \Delta 5.9$ ）が改善し、全産業（ $\Delta 22.9 \rightarrow \Delta 6.3$ ）も改善。先行き（2012年度上期：4-9月）は、製造業（ $\Delta 10.6 \rightarrow \Delta 7.1$ ）が改善を見込んでいるものの、非製造業（ $\Delta 5.9 \rightarrow \Delta 10.0$ ）が悪化を予想し、全産業（ $\Delta 6.3 \rightarrow \Delta 9.7$ ）も悪化を見込む。

< 主要産業の動向 ー 島根県 ー >

- **鉄鋼**：特殊鋼は、エレクトロニクス関連で減速傾向にあり、先行きも不透明。工作機械用鋳物は堅調に推移。
- **電子部品・デバイス**：電子部品・デバイスは、在庫調整に進展がみられるものの、海外需要の低迷により回復のスピードは遅い。自動車関連は緩やかな持ち直しの動き。
- **窯業・土石**：生コンおよびコンクリート二次製品は、公共工事、民間工事とも目立った動きがなく、総じて低調に推移。石州瓦は横這い圏内の動き。

## 【岡山県】

**現在の景気**：円高や海外経済の減速から、足踏み状態。

**3か月程度の見通し**：円高、海外経済の減速から、弱含みで推移するとみられている。

**個人消費**：横這い。2月の大型小売店販売（店調後）は前年比1.2%増と12か月ぶりに増加。自動車販売は5か月連続で前年比増加。エコカー補助金の復活や新型車効果などから、持ち直し。

**住宅建築**：横這い。2月の住宅着工戸数は前年比73.1%増と5か月ぶりに増加。持家が5か月ぶりに増加、貸家が2か月連続で増加、分譲住宅が2か月ぶりに増加。

**設備投資**：弱含み。日本銀行岡山支店の3月短観（回答企業215社）によると、2011年度の設備投資計画は前年度比13.5%減と3年連続で減少。2月の建築着工床面積（非居住用）は前年比35.6%減と3か月連続で減少。

**公共工事**：弱い動き。2月の公共工事請負額は前年比21.0%増と3か月ぶりに増加。

**輸出**：横這い。2月の通関輸出額は前年比6.3%減と4か月連続で減少。自動車は2か月連続で減少、ロシア、フランス向けが減少。鉄鋼は4か月連続で減少、中国向けが半減。化学製品は6か月連続で減少、中国、タイを中心としたアジア向けが低調。

**生産活動**：横這い。1月の鉱工業生産指数（季調済）は前月比2.0%低下し92.9。鉄鋼、自動車は2か月連続で上昇、化学は2か月ぶりに上昇、一般機械、食料品が大幅に低下。

**観光**：横這い。2月の主要観光地入込客数（一部暫定）は前年比17.8%減と2か月ぶりに減少。

**雇用情勢**：緩やかな改善傾向。2月の有効求人倍率（季調済）は前月比0.02ポイント上昇し1.02倍。12月の常用労働者数は前年比0.4%増と15か月連続で増加。所定外労働時間指数は前年比5.4%上昇し3か月連続で上昇。

### （トピックス）

○岡山経済研究所の「消費についてのアンケート調査」（対象：岡山県内の20歳以上の男女、有効回答数512、2月実施）によると、現在の消費生活の実感は「不満」が「満足」を11.6ポイント上回り、前回（2011年8月）比20.2ポイント悪化。震災から1年近くが経過し、自粛ムードが緩みつつあるものの、消費生活の改善が遅れている。

## 【広島県】

**現在の景気：**横這い圏内の動き。

**3か月程度の見通し：**横這い圏内の動きが続くとみられている。

**個人消費：**やや上向き。2月の百貨店販売（店調前）は前年比3.4%増加、スーパー販売（店調前）は0.5%増加。乗用車販売は（軽含む）は、エコカー補助金の効果から、前年比29.0%増加。

**住宅建築：**増加傾向。2月の住宅着工戸数は、持家が前年比10.7%減少したものの、貸家が8.4%増加、分譲住宅が24.9%増加し、全体では前年比4.9%増と4か月連続で増加。

**設備投資：**減少計画。2012年度の設備投資計画は、非製造業が前年度比1.1%増加するものの、製造業が1.7%減少し、全体では前年度比0.3%減と減少する見通し。

**公共工事：**横這い圏内の動き。2月の公共工事保証請負額は前年比36.7%減と4か月ぶりに減少。

**輸出：**弱含みで推移。2月の県内通関輸出額は、自動車、一般機械などが減少し、全体では前年比19.4%減と5か月連続で減少。

**生産活動：**弱含みで推移。1月の鉱工業生産指数（原指数）は、鉄鋼、電気機械、自動車などが前年比低下し、全体では3か月連続で低下。

**雇用情勢：**一進一退。2月の有効求人倍率（季調済）は、求職者数が増加したことから、前月比0.03ポイント低下し0.85倍。

## （トピックス）

○2月3日、「第4回ものづくり日本大賞」の受賞者が選出された。「ものづくり日本大賞」は、日本の産業・文化の発展を支え、豊かな国民生活の形成に大きく貢献してきた「ものづくり」を着実に継承し、さらに発展させていくため、「ものづくり」に携わっている人材のうち特に優秀と認められる人材等を表彰する制度で、2005年に創設。今回、中国地域からは、内閣総理大臣賞1件、経済産業大臣賞2件をはじめ合計30件と多数の案件が受賞。中国地域のものづくりのレベルの高さが再認識された。

## 【山口県】

**現在の景気：**個人消費の一部に明るい動きがみられるものの、化学、電子部品・デバイスなどの一部品目で生産が低迷し、足踏み状態。

**3か月程度の見通し：**欧州や中国などの海外経済の下振れリスクが懸念され、足踏み状態で推移するとみられている。

**個人消費：**一部に明るい動き。2月の乗用車販売（軽含む）は前年比33.2%増と6か月連続で増加。大型小売店販売（店調後）は前年比0.7%減と7か月連続で減少。百貨店販売、スーパー販売ともに衣料品が減少したものの、飲食料品は底固く推移。家電品販売は前年比12.5%減と7か月連続で減少。ホームセンター販売は前年比3.1%減と2か月連続で減少。

**住宅建築：**足許増加。2月の住宅着工戸数は、貸家、分譲住宅が増加し、全体では前年比8.8%増と5か月ぶりに増加。

**設備投資：**4年ぶりに増加する見通し。山口経済研究所の「設備投資動向調査」（2月実施）によると、2011年度の県内の設備投資額（工事ベース）は前年度比40.1%増加。

**公共工事：**減少傾向。2月の公共工事請負額は、国、市町村が減少し、全体では前年比3.9%減と3か月連続で減少。

**輸出：**弱含み。2月の県内通関輸出額は前年比11.2%減と12か月連続で減少。下関港の半導体等製造装置が増加したものの、防府港の欧州向け自動車、徳山港のアジア向け有機化合物が減少。

**生産活動：**低下傾向。1月の鉱工業生産指数（季調済）は前月比0.2%低下し4か月連続で低下。プラント火災の影響から、化学はプラスチックなど主力製品の稼働率が低迷、電子部品・デバイスが低水準で推移、自動車も低下。鉄鋼、窯業・土石は、震災の復興需要などを背景に一部品目の生産水準が上昇。

**観光：**明るい動き。1月の海響館（水族館）の入館者数、錦帯橋の渡橋者数、湯田温泉の宿泊客数などが増加するなど、好調に推移。

**雇用情勢：**緩やかに改善。2月の有効求人倍率（季調済）は前月比0.03ポイント上昇し0.86倍と5か月連続で上昇。新規求人数は、卸売業、小売業などで増加し、全体では前年比18.0%増と16か月連続で増加。1月の実質賃金（全業種、事業所規模5人以上）は前年比3.4%増と18か月連続で増加。

## （トピックス）

○3月14日、徳山下松港で輸入石炭の荷揚げ・貯蔵施設が完成。同港の公共埠頭を運営する周南バルクターミナル（周南市）が国・県や民間企業から用地を借りて整備。貯炭場の面積は16ha、貯炭能力は約66万t（9月までに100万tへ拡大）。9万tクラスの大型船も接岸可能で、コンビナートに立地する化学メーカーなどの国際競争力の強化が狙い。今後、瀬戸内海一帯のコールセンター（石炭集積拠点）として、年間取扱量を現状の2.5倍の250万tに引き上げる計画。

## 【徳島県】

現在の景気：個人消費に持ち直しの動きがみられるものの、一服感続く。

3か月程度の見通し：緩やかに回復していくとみられている。

個人消費：持ち直し。2月の大型小売店販売は、気温が低めに推移した影響から春物衣料品が不調となったものの、冬物衣料品、防寒用品に加え、鍋物食材を中心とした食料品が堅調に推移し、全体では前年比増加。大型ショッピングモール（ゆめタウン徳島）の開店、一部大型店のリニューアル効果もみられた。3月の乗用車販売台（軽含む）は、エコカー補助金制度の復活や新車種投入の効果から、全体では前年比74.5%増加。

住宅建築：減少。2月の住宅着工戸数は前年比6.9%減少。

設備投資：堅調な動き。大手製造業を中心に堅調。

公共工事：足許増加したものの、減少傾向。2月の公共工事請負額は、独立行政法人等が前年比22.5%減少したものの、国が86.5%増加、防災関連工事などから県が33.3%増加、市町村が146.1%増加し、全体では前年比80.2%増加。

輸出：減少。2月の小松島税関支署管内通関輸出額（前年スポットのタンカー輸出を除く）は前年比0.8%減少。

生産活動：やや弱含み。1月の鉱工業生産指数（季調済）は前月比17.4%低下し109.4。前月比上昇したのは、金属製品、繊維、鉱業など15業種のうち6業種。原指数は前年比11.1%低下。

観光：足許増加したものの、弱含み。2月の徳島市内の主要ホテル・旅館業は、インターネット予約を中心に個人客が好調に推移したほか、団体客も増加するなど、全体では前年比増加。本州四国連絡道路の交通量は、明石海峡大橋が前年比6.4%減少、大鳴門橋が4.3%減少、瀬戸大橋が4.1%減少。

雇用情勢：堅調な動き。2月の有効求人倍率（季調済）は前月比0.01ポイント上昇し0.93倍。原数値は前年比0.15ポイント上昇し1.03倍。12月の常用雇用労働者指数は前年比0.5%上昇、現金給与総額指数は1.5%上昇、所定時間外労働時間指数（製造業）は前年同水準。

### （トピックス）

○3月18日、徳島のアニメ文化発信の拠点化を狙い、アニメ映画館「ユーフォーテーブル・シネマ」（徳島市）がオープン。運営は徳島市とアニメ制作会社ユーフォーテーブル（東京）。中心市街地での常設映画館復活は6年ぶり。総事業費約1億2,000万円のうち、県が3,000万円、市が1,500万円を補助。中心市街地では2009年から定期的にアニメの祭典「マチ☆アソビ」も開催されるなど、アニメを核とした新たな観光資源となることが期待される。

## 【香川県】

**現在の景気**：一部に弱い動きもみられるものの、緩やかな持ち直しの動き。

**3か月程度の見通し**：緩やかな持ち直しが続くとみられている。

**個人消費**：持ち直しの動き。2月の大型小売店販売（店調前、速報値）は前年比0.7%増加。店調後は前年比0.2%増加。乗用車販売（軽含む）は前年比39.1%増加。

**住宅建築**：弱めの動き。2月の住宅着工戸数は、持家が前年比23.5%増加、分譲住宅が47.8%増加したものの、貸家が1.0%減少し、全体では前年比8.3%減少。

**設備投資**：持ち直し。製造業を中心に持ち直しつつある。

**公共工事**：低迷。2月の公共工事請負額は、国が前年比128.3%増加、市町が7.7%増加したものの、県が40.2%減少し、全体では前年比17.8%減少。

**輸出**：足許増加したものの、横這い。2月の県内通関輸出額は、鉄鋼、電気機器、化学製品が減少したものの、一般機械、船舶などが増加し、全体では前年比30.2%増加。

**生産活動**：持ち直しの動き。1月の鉱工業生産指数（季調済）は前月比2.2%上昇し112.8。原指数は前年比2.7%上昇し101.5。鉄鋼、非鉄金属、一般機械などが上昇、電気機械、化学、食料品などが低下。

**観光**：減少。2月の県内主要観光地の入込客数は、屋島、小豆島が増加したものの、栗林公園、琴平が減少し、全体では前年比3.1%減少。

**雇用情勢**：横這い。2月の有効求人倍率（季調済）は前月比同水準の1.09倍。新規求人数（原数値）は、製造業、運輸業、郵便業、生活関連サービス業、娯楽業以外の主要産業で増加し、全体では前年比20.5%増加。

## （トピックス）

○3月22日、県が2012年県内地価（1月1日時点）を公示。県内179地点の対前年平均変動率は住宅地が△5.5%（前年△5.8%）、商業地が△6.0%（前年△6.4%）、全用途平均が△5.8%（前年△6.2%）。下落幅は縮小したものの、全継続地点で3年連続の下落。地価の下落は21年連続。

## 【愛媛県】

**現在の景気：**一部で明るい動きがみられるものの、横這い圏内の動き。

**3か月程度の見通し：**横這い圏内の動きが続くとみられている。

**個人消費：**足許増加したものの、横這い。2月の大型小売店販売（店調前、速報値）は前年比3.7%増と2か月ぶりに増加。店調後は前年比2.4%増加。乗用車販売（軽含む）は5か月連続で前年比増加。

**住宅建築：**一進一退。2月の住宅着工戸数は、持家が前年比0.3%減少、貸家が7.6%減少、分譲住宅が5.0%減少したものの、給与住宅が大幅に増加し、全体では前年比8.2%増と3か月ぶりに増加。

**設備投資：**慎重姿勢。日本銀行松山支店の「日銀短観（愛媛県分）」によると、2012年度の設備投資額（計画）は、上期が前年同期比4.0%減少、下期が22.6%減少し、通年では前年度比13.2%減少。

**公共工事：**低水準。2月の公共工事請負額は、県が前年比28.8%増加、市町が181.8%増加し、全体では前年比6.5%増加。年度累計は前年度比減少。

**輸出：**足許増加したものの、弱含み。2月の輸出額は、非鉄金属、鉱物性燃料などが増加し、全体では前年比17.7%増と6か月ぶりに増加。

**生産活動：**一進一退。1月の鉱工業生産指数（季調済）は前月比4.8%上昇し91.2。原指数は前年比1.5%低下し2か月連続で低下。化学、非鉄金属などが低下。

**観光：**横這い。2月の道後温泉旅館宿泊客数は前年比2.1%減少。12-2月累計は前年同期比1.8%増加。

**雇用情勢：**横這い。2月の有効求人倍率（季調済）は前月比0.01ポイント上昇し0.76倍。原数値は前年比0.04ポイント上昇。新規求人数は、医療・福祉、卸売業・小売業などが増加し、全体では前年比4.5%増加。

## （トピックス）

○いよぎん地域経済研究センターが会員企業を対象に実施した、「愛媛県内事業所の節電への取り組み状況などについて」のアンケートによると、県内事業所のうち、前年の夏に節電を実施した事業所は56.9%。節電による電力使用量の減少率は「5%程度」との回答が54.7%。「節電のための今後の設備投資を予定している」と回答した事業所が34.5%。投資予定は、「照明のLED化」が72.9%、「消費電力の少ない冷暖房器具への切替」が40.3%、「消費電力の少ない機械設備への切替」が26.4%。再生可能エネルギーの固定価格買取制度の対象となる「太陽光パネルの導入」が20.1%。今年の夏に節電要請があった場合の対応に関しては「できない」、「5%未満」と回答した事業所の合計は65.5%。その理由としては「昨年かなり節電対策を実施したので、これ以上は無理」との回答が32.7%。

< 主要産業の動向 — 愛媛県 — >

- 海運**：遠洋では、バルカー（ばら積み貨物船：梱包されていない貨物を輸送する船）のスポット用船料が低迷。コンテナ船は、新造大型船が大量に供給されたことから、用船料が低調に推移。
  
- 食品**：削り節は、液体調味料へのシフトなどから需要がやや減少。主原料であるカツオ価格の指標となるバンコク相場は、依然として2,000ドル/t前後の高値で推移し、採算は悪化。珍味は消費者ニーズの変化などから従来の乾燥珍味の需要が減少。副食として食べられる海藻製品や健康を意識した小魚製品の販売に力を入れる動きも。

## 【高知県】

**現在の景気：**緩やかな持ち直し。

**3か月程度の見通し：**円高の修正、タイの洪水被害の緩和、震災復興需要の本格化、海外経済の成長率の高まりなどを背景に、緩やかに持ち直すとみられている。

**個人消費：**底固く推移。2月の百貨店販売は、衣料品などが堅調であったことから、前年比0.6%増加。スーパー販売は、各社ばらつきがあるものの、食料品の好調などから、前年比2.0%増加。乗用車販売（軽含む）は、低燃費車を中心とした新車投入効果、エコカー補助金制度の復活から、普通自動車が前年比36.8%増加、小型乗用車が32.7%増加、軽乗用車が41.1%増加し、全体では前年比37.4%増加。

**住宅建築：**持ち直しの動き。2月の住宅着工戸数は、持家が前年比9.2%減少、分譲住宅が24.0%減少したものの、大型物件の着工から貸家が170.0%増加し、全体では前年比29.1%増加。

**設備投資：**低水準。3月の四銀キャピタルの景況アンケートによると、設備投資の目的は、営業力強化に向けた「維持・補修・更新」がトップ、次いで「生産・販売力の拡充」、「合理化・省力化」の順。「何らかの設備投資をした・する」との企業割合は、1-6月期が39%（うち新規16%）、7-12月期の見通しが35%（うち新規14%）と低水準。新規設備についても慎重姿勢が続く。

**公共工事：**持ち直しの動き。2月の公共工事請負額は、国、その他の公共団体が減少したものの、県、市町村が増加し、全体では前年比2.6%増加。件数は前年比21.8%減少。

**輸出：**減少。2月の県内通関輸出額は、船舶が減少し、全体では前年比2.6%減少。

**生産活動：**持ち直しの動き。1月の鉱工業生産指数（季調済）は前月比5.7%上昇し83.4。原指数は前年比1.7%低下。機械が前年比42.0%上昇したものの、電気機械が23.1%低下、パルプ・紙・紙加工品工業が16.8%低下。

**観光：**弱含み。2月の主要観光施設利用実績は、厳寒の影響から、前年比11.2%減少。高知市内の主要ホテル・旅館（5社）の宿泊者数は前年比0.7%減少。

**雇用情勢：**ほぼ横這い。2月の有効求人倍率（季調済）は前月比0.02ポイント上昇し0.62倍。高知が0.70倍、須崎が0.70倍、四万十が0.71倍、安芸が0.70倍、いのが0.55倍。

### （トピックス）

- 3月9日、ご当地アイスグランプリ（千葉市幕張メッセ）で、安芸グループふぁーむ（安芸市）の「焼きナスのアイス」が、「最高金賞」と「優秀仰天力賞」をダブルで受賞。
- 3月22日、国土交通省が発表した県の1月1日時点の公示地価は、住宅地や商業地など全用途平均の下落率が過去最大の8.9%と17年連続で下落。2年連続で全国最大の下落率。上昇した地点は10年連続でゼロ。
- 3月23日、県の第2期産業振興計画を協議するフォローアップ委員会が高知市内のホテルで開催され、最終案を承認。県外への移輸出額（2005年＝7,155億円）を10年後に1,300億円増やすことなどの新計画を4月から実行。

< 主要産業の動向 ー高知県ー >

○製紙：2月の家庭紙（ティッシュ、トイレットペーパー、タオル用紙、その他衛生紙）の生産量は前年比 6.1%増加、出荷量は 7.0%増加、出荷額は 8.0%増加。ティッシュペーパーの生産量は前年比 0.5%減少、出荷量は 0.2%減少、出荷額は 6.9%増加。トイレットペーパーの生産量は前年比 9.6%増加、出荷量は 1.2%減少、出荷額は 1.5%減少。タオル用紙の生産量は前年比 16.7%減少、出荷量、出荷額は横這い。その他衛生紙の生産量は前年比 8.8%増加、出荷量は 11.8%増加、出荷額は 9.9%増加。

○園芸野菜：2月の野菜（青果物販売額のシェア 91.8%）と果実の出荷量は前年比 4.2%減少、販売額は単価の上昇から 4.8%増加。販売額の内訳は、野菜が前年比 7.8%増加、果実が 4.0%増加。単価は、野菜が前年比 18.6%上昇、果実が 16.8%低下。

## 【福岡県】

**現在の景気：**緩やかな持ち直し。

**3か月程度の見通し：**原油価格の上昇、海外景気の下振れリスク、電力供給の制約などが懸念される。

**個人消費：**緩やかな持ち直し。2月の大型小売店販売は、スーパー販売が前年比1.6%増加、百貨店販売が6.8%増加し、全体では前年比3.7%増と13か月連続で増加。乗用車販売は、普通乗用車が前年比32.9%増加、小型乗用車が39.8%増加、軽乗用車が25.1%増加し、全体では前年比32.5%増と6か月連続で増加。

**住宅建築：**足許減少したものの、増加傾向。2月の住宅着工戸数は、貸家が前年比2.2%増加したものの、持家が7.6%減少、分譲住宅が25.0%減少し、全体では前年比8.3%減と2か月連続で減少。

**設備投資：**慎重な動き。日本政策投資銀行「九州地域設備投資動向」によると、2011年度設備投資計画は、製造業が前年度比17.9%減少、非製造業が28.6%減少し、全体では前年度比26.2%減少。2月の着工建築物工事費予定額（非居住用）は前年比30.5%減少。

**公共工事：**減少。2月の公共工事請負額は、県が前年比25.9%増と4か月連続で増加したものの、国が47.1%減と3か月連続で減少、市町村が30.3%減と2か月連続で減少、その他公共的団体等が24.4%減と2か月ぶりに減少し、全体では前年比21.4%減と4か月ぶりに減少。

**輸出：**増加傾向。2月の博多港の輸出は、プラスチックが前年比28.9%減少したものの、電気機器が78.3%増加、一般機械が57.7%増加、輸送用機器が51.9%増加、半導体等電子部品、半導体等製造装置も増加し、全体では前年比35.7%増と2か月連続で増加。県全体では前年比11.0%増と2か月連続で増加。

**生産活動：**横這い圏内。1月の鉱工業生産指数（季調済）は、輸送機械、化学などが低下したものの、鉄鋼、一般機械などが上昇し、全体では前月比1.5%上昇し98.4と2か月連続で上昇。原指数は前年比0.9%上昇し4か月連続で上昇。

**雇用情勢：**緩やかに改善。2月の有効求人倍率（季調済）は前月比0.02ポイント上昇し0.65倍と2か月ぶりに改善。新規求人数は、金融業・保険業などで減少したものの、情報通信業、医療・福祉、宿泊業・飲食業、サービス業などで増加し、全体では前年比12.5%増加。

### （トピックス）

- 山口フィナンシャルグループの3行（北九州銀行、山口銀行、もみじ銀行）と九州工業大学は、地域の産学連携を推進し、地域産業の振興および発展に寄与することを目的として連携協定を締結。
- 西部ガス（福岡市）は、北九州市、大牟田市にメガソーラーを建設し、太陽光発電事業に参入すると発表。発電した電気は全量を九州電力に売却。都市ガス業界で同事業参入を決めたのは全国初。

## 【佐賀県】

**現在の景気：足踏み。**

**3か月程度の見通し：**低調ながら一部持ち直しに向けた動きが続くとみられている。

**個人消費：**低調。2月の大型小売店販売（店調後）は前年比3.4%減と7か月連続で減少。乗用車販売は前年比28.0%増と5か月連続で増加。

**住宅建築：**低調ながら、一部持ち直し。2月の住宅着工戸数は、貸家が前年比15.0%減少したものの、持家が2.6%増加、分譲住宅が7.6倍増加し、全体では前年比20.7%増と5か月連続で増加。

**設備投資：**低調ながら、一部持ち直し。2月の貨物自動車販売は前年比26.8%増と5か月連続で増加。1月の建築着工床面積（非居住用）は、製造業、卸売業・小売業などが増加したものの、鉱業・建設業、医療・福祉などが減少し、全体では前年比17.8%減と2か月連続で減少。

**公共工事：**低調。2月の公共工事請負額は、独立行政法人等、その他公共的団体が増加したものの、県、市町などが減少し、全体では前年比15.0%減と5か月連続で減少。

**輸出：**低調。2月の伊万里港の輸出額は前年比25.0%減と2か月ぶりに減少。唐津港の輸出額は前年比96.7%増と2か月ぶりに増加。

**生産活動：**低調ながら、足許上昇。1月の鉱工業生産指数（季調済）は、金属製品、電子部品・デバイスなどが低下したものの、輸送機械、食料品などが上昇し、全体では前月比1.0%上昇し2か月ぶりに上昇。原指数は前年比2.0%低下し2か月連続で低下。

**観光：**低調。2月の宿泊客数は、唐津地区、嬉野地区ともに減少。

**雇用情勢：**低調ながら、一部持ち直し。2月の有効求人倍率（季調済）は0.66倍と4か月ぶりに上昇。新規求人数は前年比14.5%増と25か月連続で増加。雇用保険受給者数は前月比2.9%減少、前年比は6.0%増加。

## （トピックス）

○3月27日、次代を担う技能者を育成・確保するため、ものづくり人材の育成や技能振興に産学官が連携して取り組む「さがものづくり振興協議会」が発足。アジア諸国の技術的な追い上げ、円高や原材料価格の上昇など、ものづくりを取り巻く環境が厳しさを増している。そのようななか、資源に乏しい我が国の強みは「技術」と「人材」と考え、優れたものづくり技術・技能を将来へ継承し、さらにレベルアップを図ることが必要であるとして、今回の発足に繋がった。

## 【長崎県】

**現在の景気**：持ち直しの動きにやや一服感。

**3か月程度の見通し**：緩やかな持ち直しの動きが続くものの、先行き不透明感が強まるとみられている。

**個人消費**：緩やかながら持ち直しの動き。2月の大型小売店販売（店調後）は前年比0.1%減少。乗用車販売は、普通・小型乗用車が前年比43.2%増と5か月連続で増加、軽乗用車が35.3%増加し、全体では前年比39.3%増と5か月連続で増加。

**住宅建築**：下げ止まりの動き。2月の住宅着工戸数は、持家、貸家、分譲住宅ともに増加し、全体では前年比56.4%増と2か月連続で増加。

**設備投資**：持ち直しの動き。2月の普通・小型貨物車登録台数は前年比48.9%増と2か月連続で増加。着工建築物床面積（非居住用）は前年比9.6%増と2か月ぶりに増加。

**公共工事**：足許増加。2月の公共工事請負額は、国が前年比186.9%増加、県が48.7%増加、市・町が24.5%増加し、全体では前年比62.5%増と2か月ぶりに増加。件数は前年比25.8%増と5か月ぶりに増加。

**輸出**：増加。2月の長崎港通関輸出額は、主力の船舶類、一般機械、電気機器などが増加し、全体では前年比59.3%増と2か月連続で増加。県全体では前年比68.0%増と3か月ぶりに増加。

**生産活動**：総じて堅調。2月の電子部品生産は前年比18.3%減と12か月連続で減少。1月の鉱工業生産指数（季調済）は前月比14.2%上昇し137.1と5か月ぶりに上昇。県内大手・中堅造船の生産高は前年比16.8%増と4か月連続で増加。機械・重電の生産高は前年比9.8%増と2か月連続で増加。

**観光**：やや持ち直し。2月の主要宿泊施設（46社）の宿泊客数は前年比6.8%減と3か月ぶりに減少。1月の県内主要観光施設（13施設）の入場者数は、グラバー園（前年比13.5%増加）など10施設で増加し、全体では前年比6.1%増と13か月ぶりに増加。

**雇用情勢**：厳しい状況ながら、やや持ち直し。2月の有効求人倍率（季調済）は前月比同水準の0.63倍と4か月連続で0.6倍台。新規求人数の増勢が続くなか、新規求職者数が前年比13.7%減と6か月連続で減少。高校新卒者の求人倍率（2月末現在）は前年比0.02ポイント上昇し1.12倍。

## （トピックス）

○長崎経済研究所の「県内企業景況調査」（2月実施）によると、2011年10-12月期（実績）の業況判断BSIは△8と、2011年7-9月期の実績（△18）と前回調査時の見込み（△18）をともに10ポイント上回った。2012年1-3月期（実績見込み）では△18と再び悪化し、先行き（4-6月期）も△17と足踏みの見通し。

## 【熊本県】

**現在の景気**：緩やかな持ち直しの動きが続いている。

**3か月程度の見通し**：円高、外需の減退、原油価格上昇などの不透明感はあるものの、緩やかな回復基調が続くとみられている。

**個人消費**：持ち直し。2月の大型小売店販売（店調後）は前年比0.4%増と5か月ぶりに増加。乗用車販売は、普通乗用車、小型乗用車ともに増加し、全体では前年比36.0%増と5か月連続で増加。軽乗用車販売は前年比35.3%増と5か月連続で増加。

**住宅建築**：持ち直し。2月の住宅着工戸数は、持家が減少したものの、貸家、分譲住宅が増加し、全体では前年比30.4%増と3か月連続で増加。

**設備投資**：一進一退。2月の建築着工床面積（非居住用）は前年比3.5%増と2か月ぶりに増加。貨物車販売は前年比23.7%増と8か月連続で増加。

**公共工事**：足許増加。2月の公共工事請負額は、国が減少したものの、独立行政法人等、県、市町村、その他の公共団体が増加し、全体では前年比38.1%増と2か月連続で増加。

**輸出**：一進一退。2月の県内通関輸出額は、一般機械、プラスチックなどが増加したものの、電気機器、金属鉱およびくずなどが減少し、全体では前年比1.9%減と2か月ぶりに減少。

**生産活動**：回復。1月の鉱工業生産指数（季調済）は、一般機械、輸送機械などが低下したものの、電子部品・デバイス、プラスチック製品などが上昇し、全体では前月比10.0%上昇し129.0。原指数は前年比28.3%上昇し113.3。

**雇用情勢**：足踏み。2月の有効求人倍率（季調済）は前月比0.01ポイント低下し0.68倍。新規求人数は前年比4.0%増と28か月連続で増加。

## （トピックス）

○地方経済総合研究所の「県内企業業況判断調査」（2月下旬実施、回答企業267社）によると、1-3月期の業況DIは製造業が前回（10-12月期）調査比3ポイント低下し△32、非製造業が3ポイント上昇し△21、全産業では1ポイント上昇し△24と2期ぶりに改善。製造業では「食料品以外」が改善したものの、「食料品」が悪化。非製造業は「個人サービス業」が悪化したものの、「建設業」や「生産財卸売業」、「小売業」が改善。先行き（4-6月期）は製造業が3ポイント上昇したものの、非製造業が8ポイント低下し、全産業では5ポイント低下し△29。欧州債務問題による世界景気の減速や原油価格の上昇が響き、厳しい見方。

## 【大分県】

**現在の景気：**一部に持ち直しの動きがあるものの、足踏み。

**3か月程度の見通し：**横這い圏内で推移するとみられている。

**個人消費：**横這い。2月の大型小売店販売は前年比横這い。乗用車販売（軽含む）は、普通乗用車が前年比25.8%増加、小型乗用車が34.1%増加、軽乗用車が34.0%増加し、全体では前年比32.0%増加。

**住宅建築：**足許増加したものの、低調。2月の住宅着工戸数は前年比44.4%増と3か月連続で増加。持家が2か月ぶりに減少、貸家が2か月連続で増加。

**設備投資：**低調。2月の建築着工床面積（非居住用）は前年比46.8%減と2か月ぶりに減少。貨物車販売は前年比39.6%増と5か月連続で増加。

**公共工事：**足許増加したものの、低調。1月の公共工事請負額は前年比5.6%増と2か月連続で増加。件数は前年比33.0%増と3か月連続で増加。

**輸出：**足許減少したものの、持ち直し。1月の大分税関支署通関輸出額は、映像機器、事務用機器が増加したものの、船舶類、有機化合物、銅および同合金が減少し、全体では前年比8.0%減と8か月ぶりに減少。

**生産活動：**横這い圏内の動き。1月の鉱工業生産指数（季調済）は前月比3.3%上昇し103.0と2か月連続で上昇。一般機械、情報通信機械、窯業・土石製品など8業種が上昇、金属製品、電気機械、食料品など12業種が低下。

**観光：**一進一退。2月の別府周辺地区の観光動態は、宿泊施設が前年比8.7%減と6か月連続で減少。レジャー施設は前年比6.1%減と3か月ぶりに減少。

**雇用情勢：**緩やかな持ち直し。2月の県内有効求人倍率（季調済）は前月比0.03ポイント上昇し0.73倍。有効求職者数（季調済）が前月比0.3%増加、有効求人数（季調済）が3.8%増加。

## （トピックス）

- 3月17日、JR大分駅（大分市）の完全高架化に伴い、新しい駅舎での鉄道運転が開始。鉄道で南北に分断されていた大分市の中心市街地が一体化したほか、高架下などを利用した商業施設もオープン。今後、新駅舎の北側では2015年春の開業を目指し、商業施設やホテル、映画館、展望浴場などを備えた駅ビル（地上22階地下1階）を建設する。
- JR九州グループは、大分県や農業団体がブランド化に力を入れている高糖度甘藷（かんしょ）「甘太くん」を臼杵市野津町で生産することを発表し、市と進出協定を締結。同社グループの県内の農業参入は、ニラ（大分市）、甘夏（臼杵市）に次いで3品目。将来は首都圏の系列飲食店などで取り扱う意向で、流通の拡大が期待される。

< 主要産業の動向 ー大分県ー >

○薄板：自動車向けの需要がやや増加。

○セメント：フル生産を維持。

○造船：受注残が減少。

○エチレン：設備故障のため生産中止。

## 【宮崎県】

**現在の景気：**一部に持ち直しの動きがみられる。

**3か月程度の見通し：**横這い圏内で推移するとみられている。

**個人消費：**底入れの兆し。2月の大型小売店販売（店調前）は前年比1.5%減と15か月連続で減少。主力の衣料品は前年比2.3%増と3か月連続で増加。

**住宅建築：**持ち直し。2月の住宅着工戸数は、持家が前年比6.6%増加、貸家が15.9%増加、分譲住宅が194.7%増加し、全体では前年比28.5%増と4か月連続で増加。

**設備投資：**工場の新設。食肉加工・卸業者の(株)野上食品（本社：都城市）が、約2億3,300万円を投じ、都城市に食肉加工の工場を新設。敷地面積は3,291.84㎡、延床面積は920.58㎡。従業員10名の新規採用を予定。2012年10月稼働、2013年度の生産高は5億8,100万円を見込む。

**公共工事：**低迷。2月の西日本建設業保証の保証対象請負総額は、国が前年比38.2%減少、独立行政法人等が96.0%減少、県が22.1%減少、市町村が9.7%減少し、全体では前年比35.8%減と5か月連続で減少。

**輸出：**持ち直し。2月の細島港通関輸出額（確報）は、韓国、英国、米国向けが約9割を占める機械類および輸送製品が前年比174.7%増加、インド、イタリア、フィリピン向けが約8割を占める繊維用糸および繊維製品が37.5%増加し、全体では前年比7.2%増と3か月連続で増加。

**生産活動：**低調。1月の鉱工業生産指数（季調済、速報値）は前月比11.0%上昇し93.5と5か月ぶりに上昇。前月比上昇した業種は、電子部品・デバイス、輸送機械、化学など9業種。原指数は前年比5.7%低下し85.5と11か月連続で低下。

**観光：**足許持ち直し。2月の宮崎空港乗降客数は前年比18.0%増の21万1,283人と2か月連続で増加。国内線は、上りが前年比15.9%増の10万2,621人、下りが18.6%増の10万5,481人。国際線は、出国が前年比99.0%増の1,642人、入国が94.8%増の1,539人。

**雇用情勢：**低水準ながら、持ち直しの動き。2月の有効求人倍率は前月比同水準の0.64倍。有効求人数は前年比0.4%増加、有効求職者数は0.7%増加。新規求人数は、医療・福祉などが増加し、全体では前年比7.8%増加。

### （トピックス）

○みやぎん経済研究所の「企業動向アンケート調査」（対象：県内企業600社、回答率51.0%、四半期ごとに実施）の調査によると、今期（2012年1-3月期）の業況判断DIは、前期（2011年10-12月期「△13」）比ほぼ横這いの△12。県内景気の判断は、「悪い」（71%）が前期比6ポイント低下したものの、依然として70%超え。2期連続で「良い」との回答はなく、景況判断は低水準。

## 【鹿児島県】

**現在の景気：**生産活動が低調に推移し、厳しい状態が続いているものの、観光関連は引き続き好調、個人消費も一部に持ち直しの動き。

**3か月程度の見通し：**弱含みで推移するとみられている。

**個人消費：**横這い圏内の動き。1月の大型小売店販売は、衣料品が増加、気温の低下から冬物衣料品が増加したものの、飲食料品が前年並み、家電製品が減少し、全体では前年比減少。

2月の乗用車販売は、エコカー補助金や新型車投入の効果から、普通乗用車が前年比46.7%増加、小型乗用車が37.5%増加し、全体では前年比41.3%増と6か月連続で増加。軽自動車販売は前年比26.1%増と5か月連続で増加。

**住宅建築：**一部持ち直し。1月の住宅着工戸数は、分譲住宅が増加したものの、持家、貸家が減少し、全体では前年比12.7%減と2か月ぶりに減少。

**設備投資：**一部持ち直し。1月の民間建築工事は、件数、床面積、工事費予定額ともに前年比増加。

**公共工事：**低調。1月の公共工事は、件数が前年比減少、請負額は増加。

**輸出：**持ち直し。1月の輸出額は、タイヤ・チューブが減少したものの、半導体等電子部品が増加し、全体では前年比41.5%増と12か月連続で増加。

**生産活動：**低調。1月の鉱工業生産指数（原指数）は14か月連続で前年比低下。電子部品関連は円高が修正されつつあるものの、需要の低迷や海外との競争激化で厳しい状況が続き、受注の動きも弱い。

**観光：**好調。2月の主要ホテル・旅館宿泊客数（鹿児島・霧島・指宿地区）は前年比29.5%増と9か月連続で増加。特に霧島地区は新燃岳噴火の影響で落込んだ反動から前年比2.5倍と大幅に増加。指宿地区も関西・山陽など新幹線沿線や関東からの入込客が大幅に増加。種子島・屋久島地区は団体客が増加。主要観光施設入場者数は九州新幹線全線開業効果からほとんどの施設で前年比増加。

**雇用情勢：**横這い。1月の有効求人倍率は前月比同水準の0.60倍。医療・福祉、卸売・小売業などで採用を増やす動きがみられる。一方、正社員求人の割合が低く、有効求職者数が高水準で推移するなど、雇用情勢は依然厳しい。

### （トピックス）

- 3月25日、中華航空の「鹿児島ー台北」線が就航。台北線は火、木、日の週3便運航。機材は「ボーイング737-800」（158席）を使用し、「鹿児島ー台北」間を約2時間で結ぶ。鹿児島空港へは現在、大韓航空のソウル線と、中国東方航空の上海線が乗り入れており、同空港発着の定期国際航空路線は計3路線。

<主要産業の動向 ー鹿児島県ー >

○電子部品製造業：低調。

○焼酎製造業：1月の焼酎生産は24か月ぶりに前年比増加したものの、出荷は3か月ぶりに減少。

○畜産関連：肉用牛（和牛）の枝肉相場は低調に推移。

## 【沖縄県】

**現在の景気：**観光が持ち直し、個人消費が底固い動きにあるなど、持ち直し。

**3か月程度の見通し：**持ち直しの動きが続くとみられている。

**個人消費：**底固い動き。2月の百貨店販売は、食料品が増加し、前年比2.3%増と3か月連続で増加。スーパー販売（店調後）は、食料品が増加し、前年比1.0%増と7か月ぶりに増加。乗用車販売（軽含む）は、エコカー補助金制度の復活などから、全体では前年比43.7%増と5か月連続で増加。家電品販売は、テレビ、DVDレコーダーなどが減少し、前年比15.4%減と7か月連続で減少。

**住宅建築：**一進一退。2月の住宅着工戸数は、持家が前年比26.3%増加したものの、貸家が47.6%減少、分譲住宅が54.3%減少し、全体では前年比34.7%減と3か月ぶりに減少。

**設備投資：**やや上向き。2月の建築着工床面積（非居住用）は前年比57.2%増と3か月連続で増加。貨物車（小型）登録台数は5か月連続で前年比増加。

**公共工事：**弱含み。2月の公共工事請負額は前年比41.3%減と2か月連続で減少。国（沖縄防衛局）が基地関連病院の工事の減少から前年比45.9%減少、独立行政法人等が沖縄科学技術大学院大学関連工事の減少から99.7%減少、県が伊良部大橋関連工事の減少から5.7%減少、市町村が宜野湾市の住宅建替工事の減少から48.7%減少。

**輸出：**足許増加。2月の管内通関輸出額は、石油製品、再輸出品、金属鉱およびくずなどが増加し、全体では前年比372.4%増と2か月連続で増加。

**生産活動：**一進一退。1月の鉱工業生産指数（季調済）は前月比15.1%低下し85.3。金属製品が前月比11.3%低下、石油製品が12.5%低下、食料品が25.9%低下するなど5業種が低下。鉄鋼、窯業・土石製品、繊維など6業種が上昇。

**観光：**持ち直し。2月の入域観光客数は前年比4.0%増の43万9,500人と5か月連続で増加。国内客は、プロ野球キャンプの効果から入域客が増加し、全体では前年比3.9%増の42万3,400人と2か月ぶりに増加。外国客は、上海や北京の空路路線の増加などから中国、韓国の入域客が増加し、全体では前年比8.1%増の1万6,100人と5か月連続で増加。主要ホテル稼働率は前年比4.0%ポイント上昇し78.4%と5か月連続で上昇。売上高は前年比2.1%増と5か月連続で増加。

**雇用情勢：**緩やかな改善。2月の有効求人倍率は前月比0.01ポイント上昇し0.36倍。完全失業率（季調済）は前月比0.3ポイント改善し7.2%。

### （トピックス）

○おきぎん経済研究所の企業動向調査によると1-3月期の業況DIは13.2。製造業、土木業、建築業、卸・小売業、情報通信サービス業などで業況改善の動き。その他サービス業では業況の弱さがみられる。4-6月期の業況見通しDIは11.6。全業種で業況改善の動きを見込む。

○「スーパークールビズ」の効果から、かりゆしウェアの生産が増加。県外百貨店やインターネットでの取扱いが増加。県内での売上げが伸び悩むなか、ウェアに付ける製品タグの発行枚数は前年比12%増の約35万3000枚と過去3番目の枚数。県外市場への販路拡大には縫製人員確保など課題はあるものの、期待も大きい。

< 主要産業の動向 ー 沖縄県 ー >

- 窯業・土石**：横這い。2月の生コン出荷量は前年比5.4%増と4か月ぶりに増加。公共工事向け出荷が前年比4.5%減少、民間工事向け出荷が13.0%増加。セメント出荷量は前年比5.5%増と4か月ぶりに増加。
  
- 主要ゴルフ場入場者数**：持ち直し。2月の主要ゴルフ場の入場者数は、県外客が増加したものの、県内客が減少し、前年比横這い。
  
- 家電卸出荷額**：減少。エコポイント制度終了の反動から、全体では前年比15.4%減と7か月連続で減少。テレビが前年比56.0%減少、冷蔵庫が9.2%増加、洗濯機が28.4%増加、4月以降の部材価格の高騰を見据えた駆込み需要からエアコンが85.4%増加。
  
- 新車登録台数**：横這い。エコカー補助金制度の復活から、全体では前年比43.7%増と5か月連続で増加。普通乗用車が前年比31.2%増と2か月ぶりに増加、小型乗用車が77.4%増と6か月連続で増加、軽乗用車が30.6%増と5か月連続で増加。
  
- 泡盛出荷量**：弱含み。11月の泡盛出荷量は前年比3.0%増と3か月ぶりに増加。県内出荷量は前年比1.8%増加、県外出荷量は10.2%増加。